



平成29年度 2017 College Bulletin

学校要覧

MISSION

豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成

地域における知の拠点としての社会貢献

独立行政法人 国立高等専門学校機構

香川高等専門学校

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, KAGAWA COLLEGE



■校章とその由来

二つの高専の伝統を守りつつ、新しいイメージになるように考えられています。
中央の「K」は古の良さと新しき時代を融合させた書体で力強さを出しています。
「K」から枝が生え実った2個のオリーブは高松キャンパスと詫間キャンパスを表しています。色は、知的で誠実な印象を与える配色としました。



高松キャンパス



詫間キャンパス

巻頭言

国立香川高等専門学校は、ともに長い歴史を持つ高松工業高等専門学校と詫間電波工業高等専門学校が高度化再編し、平成 21 年 10 月 1 日に発足しました。本科 7 学科、専攻科 2 専攻を有する高等専門学校です。香川高専では、教育研究施設・設備の整備および充実を図り、高松、詫間両キャンパスの連携を強化しながらそれぞれの特徴を生かし、魅力的な教育環境を提供しています。本科では、中学校卒業後の 5 年間について、一般教育と専門教育、ならびに実践的技術教育を融合したカリキュラムを設定し、科学技術の急速な進展に対応できる能力を備え、知と技と心の調和のとれた、「豊かな人間性を有し、創造力に富む実践的な技術者の育成」を行っています。5 年間の学習で、大学とほぼ同程度の実力を身に付けることができます。さらに本科卒業後、専攻科で 2 年間の学習をすることにより、大学卒業と同じ学士（工学）の学位を取得することができます。

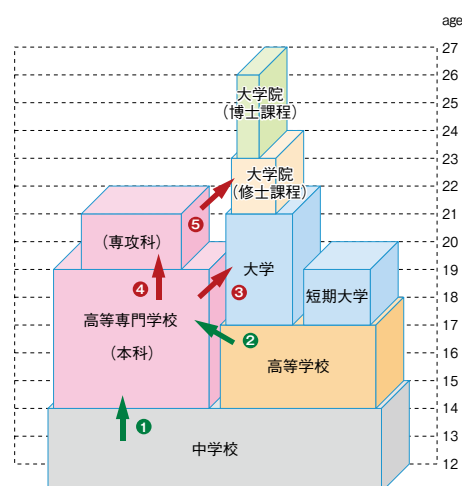
本科は、高松キャンパスに、創造基礎工学系の機械工学科、電気情報工学科、機械電子工学科、建設環境工学科の 4 学科があります。創造的「ものづくり」の領域で活躍できる技術者を育成しています。また詫間キャンパスに、電子情報通信工学系の通信ネットワーク工学科、電子システム工学科、情報工学科の 3 学科があります。先端的「電子情報通信」の領域で活躍できる技術者を育成しています。専攻科は、高松キャンパスに創造工学専攻が、詫間キャンパスに電子情報通信工学専攻があります。知的刺激に満ちたカリキュラムとグローバル教育の実施、特別研究の充実を図っています。

香川高専では、学生寮、学生相談室、キャリアサポートセンター等を備え、学生の福利厚生、勉学並びに就職支援やインターンシップ等のキャリア支援のための体制を整えています。さらに、国際学術交流を推進する国際交流室、産業界と共同で地域連携を進める地域人材開発本部等を設置して幅広く教育・研究を行い、「地域における知の拠点としての社会貢献」を進めています。海外の大学との国際学術交流協定の締結、学生の海外派遣、また企業との共同研究等を盛んに行っています。

高松高専と詫間電波高専の長い歴史と伝統のもと、卒業生は、香川高専に高度化再編後を加え、19,600 名に及びます。卒業生は民間企業や、官公庁、大学、研究所等において、産業・技術・研究の第一線で幅広く活躍しており、優れた実力と堅実な業務は各方面から高く評価されています。香川高専は、これまでの伝統を継承しつつ、新しい歩みを進め、発展して参ります。皆様のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。



香川高等専門学校 校長
八尾 健



- ① 中学校卒業段階の学生が入学
- ② 高校卒業者は高専への編入資格がある
- ③ 高専卒業者は大学への編入の資格がある
- ④ 高専卒業者は高専の専攻科に進学する資格がある
- ⑤ 専攻科を修了して「学士」を得た者は、大学院への入学資格がある

目 次

巻頭言

本校の概要 1

創立の趣旨

沿革

使命・教育目的 3

香川高等専門学校の使命

教育目的

組織 4

組織図

役付職員

現員

本科 6

一般教育

[創造基礎工学系]

機械工学科 10

電気情報工学科 12

機械電子工学科 14

建設環境工学科 16

[電子情報通信工学系]

通信ネットワーク工学科 18

電子システム工学科 20

情報工学科 22

専攻科 24

創造工学専攻

機械工学コース

電気情報工学コース

機械電子工学コース

建設環境工学コース

電子情報通信工学専攻

電子情報工学コース

電子情報通信専修コース

国際交流活動 28

国際学術交流

学生の国際交流活動

香川高専・他高専・高専機構が主催・共催した

学生の国際交流活動

香川高専グローバルエンジニア研修プログラム

国際シンポジウム等の開催

外国人留学生

地域人材開発本部 30

地域人材開発本部組織図

スタッフ

みらい技術共同教育センター

地域イノベーションセンター

香川高専教員の研究分野、キーワード

産学官連携活動

地域社会連携活動

研究活動等 34

科学研究費助成事業

受託研究

共同研究

その他競争的資金・助成金

情報処理施設 36

情報インフラストラクチャ

情報基盤センター

技術教育支援センター 37

学生相談等施設 38

学生相談室

キャリアサポートセンター

図書館 39

学生寮 40

清雲寮

七宝寮及び紫雲寮

福利厚生施設 41

自彊会館

福利センター

職員集会所

和敬館

合宿研修所

学生数と志願者状況 42

学生数

入学志願者数と入学者数

学生組織 43

学生会組織図

部活動及び同好会

進路状況 44

本科生

専攻科生

大学編入先一覧 本科生

大学院入学先一覧 専攻科生

就職先一覧

施設配置図 46

財政 46

収入・支出

寄附金受入状況

アクセスマップ 48

校歌 49

本校の概要

◇創立の趣旨

近年、社会の変化に伴って国立高専を取り巻く環境は大きく変化し、それに対応して高専には自ら変革することが強く求められてきています。即ち、あらゆる分野のグローバル化が進展し、科学技術の進歩と社会の高度化・複雑化が急速に進み、高専教育においても時代に対応した準学士課程の充実と専攻科の高度化が必要になっています。一方、少子・高齢化による社会の年代構成の変化とともに、子供達の理科離れ現象により高専の志願者数は減少傾向にあります。社会の発展の基盤部分を支えていくという社会的責任の下に、高専としては、従来以上の高度な実践的・創造的技術者の育成を目指さなければなりません。

中央教育審議会大学分科会においては、高等専門学校特別委員会が設けられ、「高等専門学校教育の充実について」検討され、平成20年12月24日に16年ぶりで答申がなされています。そこには、開校以来高専が高い評価を得ていること、知識基盤社会の到来に対する技術の高度化に向けて、科学技術創造立国を実現するという観点からも一層の教育の充実・強化が必要であることなどが述べられています。また、学習意欲の高揚を図り、国際的な活躍が期待できる学生を育てるために、他の教育機関や産業界、地域社会との連携を進めることの必要性が提言されています。

これらの状況を踏まえて、香川地区では二つの高専の特色を活かしつつ、高度化再編を図り、本科を創造基礎工学系（高松キャンパス）と電子情報通信工学系（詫間キャンパス）の2工学系に大括りして、専攻科は本科の各工学系に対応した2専攻として、新しく「香川高等専門学校」を創立しました。この新高専の使命は、「豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成」と「地域における知の拠点としての社会貢献」としています。そして、教育研究基盤並びに管理運営基盤の強化を基に、広い視野と創造性・問題解決能力に富む実践的な技術者を育成するとともに香川県の産業界や行政と連携を深めて地域の活性化に貢献します。さらに、四国地区高専の拠点校として、高専間の連携を図り、産業界や大学との広域連携体制を構築していきます。



◇沿革

高松工業高等専門学校（高松キャンパス）

昭和 37（1962）年 4 月

機械工学科 2 学級、電気工学科 1 学級からなる国立高松工業高等専門学校を創設

初代校長に増山義雄（大阪府立大学教授）就任

昭和 41（1966）年 4 月

土木工学科 1 学級を増設

昭和 49（1974）年 4 月

第二代校長に立松秋雄（文部省大学学術局科学官）就任

昭和 57（1982）年 4 月

第三代校長に國松治男（文部省初等中等教育局審議官）就任

昭和 61（1986）年 6 月

第四代校長に河西三省（京都大学名誉教授）就任

平成 2（1990）年 4 月

機械工学科 1 学級を改組し、制御情報工学科を設置

平成 3（1991）年 4 月

第五代校長に山本清（日本国際教育協会専務理事）就任

平成 6（1994）年 4 月

土木工学科を建設環境工学科に改組

平成 8（1996）年 7 月

第六代校長に平川忠男（大学入試センター副所長）就任

平成 11（1999）年 4 月

専攻科（機械電気システム工学専攻、建設工学専攻）を設置

平成 13（2001）年 4 月

電気工学科を電気情報工学科に名称変更

第七代校長に早野浩（文部科学省大臣官房文教施設部長）就任

平成 16（2004）年 4 月

独立行政法人国立高等専門学校機構高松工業高等専門学校に移行

平成 17（2005）年 4 月

第八代校長に塩谷幾雄（広島大学理事・副学長）就任

平成 20（2008）年 10 月

第九代校長に嘉門雅史（京都大学大学院地球環境学堂長、地球環境学舎長）就任

香川高等専門学校

平成 21（2009）年 10 月

高松工業高等専門学校と詫間電波工業高等専門学校を高度化・再編し、独立行政法人国立高等専門学校機構香川高等専門学校を設置
創造基礎工学系（機械工学科、電気情報工学科、機械電子工学科、建設環境工学科）、電子情報通信工学系（通信ネットワーク工学科、電子システム工学科、情報工学科）を設置

専攻科（創造工学専攻、電子情報通信工学専攻）を設置

初代校長に嘉門雅史（高松工業高等専門学校長）就任

平成 25（2013）年 1 月

香川高等専門学校創設 70 周年・高専創立 50 周年記念式典挙行

平成 26（2014）年 4 月

第二代校長に八尾健（京都大学大学院エネルギー科学研究科教授・工学部教授、前エネルギー科学研究科長）就任

詫間電波工業高等専門学校（詫間キャンパス）

昭和 18（1943）年 10 月

官立無線電信講習所大阪支所を大阪府中河内郡矢田村に設立

昭和 20（1945）年 4 月

官立大阪無線電信講習所と改称

昭和 24（1949）年 4 月

香川県三豊郡詫間町に移転、国立学校設置法の施行により詫間電波高等学校と改称

昭和 46（1971）年 4 月

国立詫間電波工業高等専門学校を設置

初代校長に石黒美種（徳島大学工学部教授工学博士）就任

昭和 51（1976）年 4 月

電波通信学科 2 学級、電子工学科 1 学級に改組

昭和 54（1979）年 4 月

第二代校長に田中哲郎（京都大学工学部教授工学博士）就任

昭和 55（1980）年 4 月

電波通信学科 2 学級を電波通信学科 1 学級、情報工学科 1 学級に改組

昭和 60（1985）年 4 月

電子制御工学科 1 学級を増設

昭和 62（1987）年 4 月

第三代校長に浅井健次郎（京都大学理学部教授理学博士）就任

平成元（1989）年 4 月

電波通信学科を情報通信工学科に名称変更

平成 3（1991）年 4 月

第四代校長に片山健一（京都大学化学研究所教授理学博士）就任

平成 8（1996）年 4 月

第五代校長に布川晃（京都大学工学部教授工学博士）就任

平成 13（2001）年 4 月

第六代校長に竹内賢一（京都大学大学院工学研究科教授 Ph.D）就任

平成 16（2004）年 4 月

独立行政法人国立高等専門学校機構詫間電波工業高等専門学校に移行
専攻科（電子通信システム工学専攻、情報制御システム工学専攻）を設置

平成 18（2006）年 4 月

第七代校長に高畑秀行（高松工業高等専門学校 機械工学科教授）就任

使命・教育目的

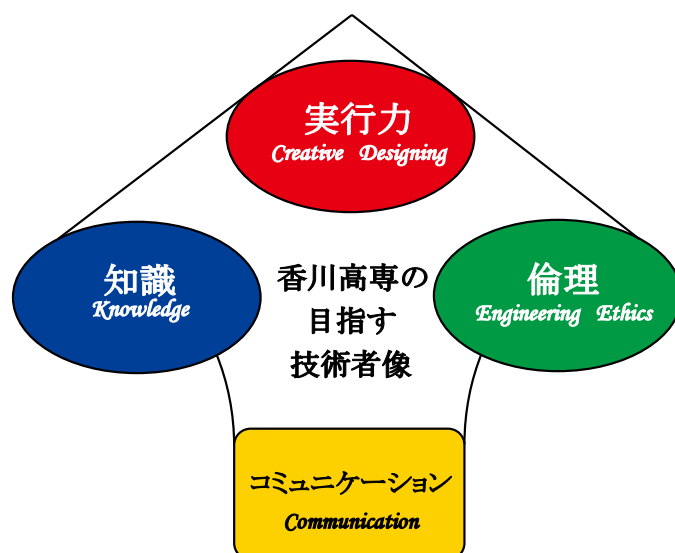
◇香川高等専門学校の使命

豊かな人間性を有し創造力に富む実践的な技術者の育成
地域における知の拠点としての社会貢献

◇教育目的

本校では、教育目的を次のように設定しており、教育課程の具体的な学習・教育目標はこれを基本として構成されています。

- ◇ 広い視野を持ち、自然との調和を図り、人類の幸福に寄与できる技術者を養成する。
(倫理)
- ◇ 科学技術の基礎知識と応用力を身につけ、時代の変遷に対応できる技術者を養成する。
(知識)
- ◇ 課題解決の実行力と創造力を身につけ、社会に有益なシステムを構築できる技術者を養成する。
(実行力)
- ◇ 物事を論理的に考え表現する能力を身につけ、国際的に活躍できる技術者を養成する。
(コミュニケーション能力)



この図案は、**知識・倫理・実行力**を三位一体として、技術を磨きつつ人格の形成を目指し、これを基本として論理的な思考力・表現力でグローバルな**コミュニケーション**を通して社会に貢献すると共に、その影響・効果に責任を持ち、常に技術の修得に上昇志向で取り組むことを旨としています。

赤は情熱的な果敢な精神を、緑は穏やかな癒しの精神を、青は知識の泉を表しています。同時に RGB は光の三原色であり、上記の三位一体の概念を含ませています。これに加えて、橙色は自由な精神とグローバル性を表しています。

組織

◇組織図



◇役付職員

	役 職 名	氏 名		役 職 名	氏 名		役 職 名	氏 名
高松キャンパス	校長	八尾 健	詫間キャンパス	副校長	福永 哲也	全 学 組 織 (専攻科)	専攻科長	小竹 望
	副校長	木原 茂文		教務主事 (校長補佐)	内田由理子		創造工学専攻長	小竹 望
	教務主事 (校長補佐)	岡野 寛		学生主事 (校長補佐)	富士原伸弘		電子情報通信工学専攻長	長岡 史郎
	学生主事 (校長補佐)	澤田 功		寮務主事 (校長補佐)	畑 伸興		情報基盤センター長	鹿間 共一
	寮務主事 (校長補佐)	由良 諭		一般教育科長	南 貴之		地域人材開発本部副本部長	岩田 弘
	一般教育科長	坂本 具儀		通信ネットワーク工学科長	一色 弘三		みらい技術共同教育センター長	金澤 啓三
(教育研究施設)	機械工学科長	山崎容次郎	(学生相談等施設)	電子システム工学科長	矢木 正和	事 務 部	地域イノベーションセンター長	岩田 弘
	電気情報工学科長	鹿間 共一		情報工学科長	宮武 明義		総務・広報室長 (校長補佐)	徳永 修一
	機械電子工学科長	鹿永 秀和		図書館長	塩沢 隆広		国際交流室長 (校長補佐)	長岡 史郎
	建設環境工学科長	小竹 望		図書館長	塩沢 隆広		技術教育支援センター長	福永 哲也
	図書館長	田口 淳		学生相談室長	出刈 幹郎		キャリアサポートセンター長	鯖目 正志
	(学生相談等施設)	学生相談室長		長原しのぶ				
							総務課長	小西 誠二
							管理課長	安藤 英治
							学務課長	高嶋 実
							学生課長	藤沢 博伸



区 分	校 長	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	合 計
現 員	1	41	43	11	15	0	111

区 分	事務系	技術系	合 計
現 員	57	26	83

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY, KAGAWA COLLEGE ● 5

本科

一般教育科

Department of General Education

一般教育は社会人としての教養を養い、各専門学科に必要な基礎学力を培います。また、専門教育と補い合い、学生を、総合的判断力を持った創造性豊かな技術者に育てることを目指しています。教育内容は、3学年まではほぼ高等学校と同じ内容ですが、専門科目の基礎となる数学に多くの時間を充てています。4、5学年では大学の教養課程レベルの内容を扱い、この間に修得した単位は、専攻科進学後や大学3学年編入学後も修得単位として認められています。

1. 社会や文化に広く関心を持ち、より広い視野に立って物事を捉えることができる人間を育成する。
2. 自然科学（数学・物理・化学）に対する基礎的な知識を持った人間を育成する。
3. 社会性と協調性を持ち、自主的に礼儀正しく行動しようとする人間を育成する。
4. 自分の考えを論理的に伝えることのできる基礎的なコミュニケーション能力を持った人間を育成する。

一般教育科教員（高松キャンパス）

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授	法学修士	河野 通弘 KONO, Michihiro	公民Ⅰ，公民Ⅱ，社会科学Ⅰ／法学
	博士（理学）	谷口 浩朗 TANIGUCHI, Hiroaki	基礎数学Ⅰ，基礎数学Ⅱ，微分積分Ⅰ，微分積分Ⅱ
	文学修士	坂本 具徳 SAKAMOTO, Tomotsugu	国語Ⅰ，国語Ⅱ，文学特論Ⅰ
	理学修士	高橋 宏明 TAKAHASHI, Hiroaki	基礎数学Ⅰ，基礎数学Ⅱ，微分積分Ⅰ，微分積分Ⅱ
	博士（工学）	岡野 寛 OKANO, Hiroshi	化学Ⅰ／分析化学，輪講
	教育学修士	田口 淳 TAGUCHI, Jun	公民Ⅰ，公民Ⅱ，人文科学Ⅰ，語学特講（ドイツ語）
	修士（体育学）	中瀬 巳紀生 NAKASE, Mikio	保健・体育Ⅰ，保健・体育Ⅱ，保健・体育Ⅲ，保健・体育Ⅳ
	Ph.D. in Speech-Language-Hearing Sciences	伊藤 喜久代 ITO, Kikuyo	英語ⅠA，英語Ⅳ
	博士（理学）	澤田 功 SAWADA, Isao	物理Ⅱ，物理学基礎Ⅰ／応用物理学
	博士（理学）	橋本 典史 HASHIMOTO, Norifumi	化学Ⅱ，環境化学，物理化学基礎／物理化学，分析化学
准教授	修士（体育学）	吉澤 恒星 YOSHIZAWA, Kousei	保健・体育Ⅰ，保健・体育Ⅱ，保健・体育Ⅲ，保健・体育Ⅳ
	博士（文学）	長原 しのぶ NAGAHARA, Shinobu	国語Ⅰ，文学特論Ⅰ／文学作品講読
	修士（文化史学）	與田 純 YODA, Jun	歴史Ⅰ，歴史Ⅱ，人文科学Ⅱ
	MA in TESOL, 修士(国際コミュニケーション)	市川 研 ICHIKAWA, Ken	英語ⅡA／実践英語，工業英語
	Ph.D	佐藤 文敏 SATO, Fumitoshi	
講 師	修士（言語教育学）	鳥羽 素子 TOBA, Motoko	英語ⅠA，英語Ⅳ
	MA in History 修士（歴史学）	徳永 慎太郎 TOKUNAGA, Shintaro	英語ⅡB，英語ⅢA
助 教	博士（理学）	野田 数人 NODA, Kazuto	物理Ⅰ，物理Ⅱ，物理学基礎／現代物理学
	博士（理学）	白石 希典 SHIRAIISHI, Maresuke	基礎数学Ⅰ，基礎数学Ⅱ，微分積分Ⅰ，微分積分Ⅱ／数学特論Ⅱ

- 理 科** 物理、化学の基礎的な学習、実験を通して現代科学の基本的な考え方、自然観を習得する。
将来必要となる理学、工学についての発展した内容を理解する上で土台となる基礎力を養う。
- 数 学** 演習などを通して、微分と積分を中心とした工学分野への応用を見込んだ数学の基礎学力を確実に身につける。
- 国 語** 現代文・古文・漢文を通して、情操を養い、他人の見方や考え方を知る。
また、日本語を正確に理解し使いこなすことができるようにし、表現力を磨く。
- 社 会** 一人の社会人として生きるために必要な基本的知識と、健全な批判力を養成する。そのために地歴と公民の分野の学習を通じて、世界と日本の社会や文化についての理解を深めるとともに、社会科学や人文科学への関心を育む。
- 英 語** 英語による基本的なコミュニケーションができるようにする。そのため、読む、書く、話す、聞くの4技能の基礎的な力を身につける。
さらに、英語を通じて世界の文化、技術、ものの見方などについて理解を深め、国際社会に対する関心を深める。
- 体 育** 様々なスポーツの実践を通して、社会性・協調性を養っていくとともに、課題解決のための実行力を身につける。

■一般教育科教員（詫間キャンパス）

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授		出 淵 幹郎 IDEBUCHI, Mikio	英語ⅠB, 英語特論Ⅰ／コミュニケーション英語Ⅱ
	理学修士	南 貴之 MINAMI, Takayuki	微分積分学Ⅰ, 微分積分学Ⅱ, 数学概論Ⅲ
	教育学修士	内 田 由理子 UCHIDA, Yuriko	歴史Ⅱ, グローバル・スタディーズ／技術者倫理
		有 馬 弘智 ARIMA, Hirotoshi	保健・体育Ⅰ, 保健・体育Ⅲ, 保健・体育Ⅳ, 保健・体育Ⅴ
	文学修士	畑 伸興 HATA, Nobuaki	英語ⅡA, 英語特論Ⅱ
	博士（文学）	富士原 伸弘 FUJIHARA, Nobuhiro	国語Ⅰ, 国語Ⅲ, 文学特論Ⅱ／文学特論
准教授	博士（学術）	橋本 竜太 HASHIMOTO, Ryuta	基礎数学Ⅱ, 数学解析
	博士（理学）	上原 成功 UEHARA, Shigenori	基礎数学Ⅰ, 数学概論Ⅰ, 数学概論Ⅱ／応用数学特論
	MA in Applied Linguistics 修士（文学）	森 和憲 MORI, Kazunori	英語ⅠA／コミュニケーション英語Ⅰ
		横山 学 YOKOYAMA, Manabu	保健・体育Ⅱ, 保健・体育Ⅲ, 保健・体育Ⅳ, 保健・体育Ⅴ
	博士（理学）	中村 篤博 NAKAMURA, Tokuhiro	化学Ⅰ, 化学Ⅱ
	博士（理学）	黒木 経秀 KUROKI, Tsunehide	物理Ⅰ, 物理Ⅱ, 物理学特論
講 師	博士（社会学）	山岡 健次郎 YAMAOKA, Kenjiro	公民Ⅰ, 公民Ⅱ, グローバル・スタディーズ／技術者倫理
助 教	修士（国文学）	森 あかね MORI, Akane	国語Ⅱ, 国語Ⅲ, 文学特論Ⅱ／文学特論
	博士（数理学）	増本 周平 MASUMOTO, Shuhei	基礎数学Ⅲ, 微分積分学Ⅰ, 微分積分学Ⅱ

■教育課程

必修科目（両キャンパス共通）

授業科目		単位数	学年別単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
国語	国語Ⅰ	3	3					
	国語Ⅱ	2		2				
	国語Ⅲ	2			2			
社会	地理	2	2					
	歴史Ⅰ	2	2					
	歴史Ⅱ	2		2				
	公民Ⅰ	2		2				
	公民Ⅱ	2			2			
数学	基礎数学Ⅰ	3	3					
	基礎数学Ⅱ	3	3					
	基礎数学Ⅲ	2		2				
	微分積分Ⅰ	4		4				
	微分積分Ⅱ	3			3			
	数学解析	3			3			
	数理解習	1		1				
理科	物理Ⅰ	2	2					
	物理Ⅱ	3		3				
	化学Ⅰ	3	3					
	化学Ⅱ	2		2				
体育	保健・体育Ⅰ	3	3					
	保健・体育Ⅱ	2		2				
	保健・体育Ⅲ	2			2			
	保健・体育Ⅳ	2				2		
英語	英語ⅠA	4	4					
	英語ⅠB	2	2					
	英語ⅡA	3		3				
	英語ⅡB	2		2				
	英語ⅢA	2			2			
	英語ⅢB	2			2			
	語学演習	2			2			
芸術Ⅰ		1	1					
芸術Ⅱ		1		1				
キャリア概論		1			1			1～3年で履修
小計		75	28	26	19	2	0	



マルチメディアラーニング・ラボでの英文法の学習



視聴覚教室での講義



マルチメディア教室での授業

■主な取り組み

- ・コミュニケーション能力向上のため、プレゼンテーション・ソフト等により発表させています。また、日本語検定等の資格試験受験を勧め、チャレンジする機会を与えています。（国語）
- ・豊かな人間・情操を育てるような対話型学習を取り入れています。また、学生の関心をひく教材を提示しています。（社会）
- ・きめ細かい指導を行い、問題演習を行うことで基礎学力の定着を図っています。また、専門学科との連携を図りつつカリキュラムの見直しをしています。（数学）
- ・基礎力向上のため不断の取り組みをしています。学習到達度試験等に関連して、自主学習の促進とモチベーション向上を図っています。（理科）
- ・スポーツテスト、各実技テストを行うことで、運動能力の維持・向上を図っています。団体行動、ルール遵守を身につけさせ、コミュニケーション能力と問題解決能力を養います。（体育）
- ・TOEIC、英語検定等の資格試験にチャレンジさせています。また、実践的英語運用能力を身につけさせるため英会話セッション等を実施しています。（英語）

選択科目（高松キャンパス）

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
文学特論Ⅰ	2				2		※
英語Ⅳ	3				3		
語学特講	2				2		
環境化学	2				2		※
物理化学基礎	2				2		※
人文科学Ⅰ	2				2		1科目選択
人文科学Ⅱ	2				2		
人文科学Ⅲ	2				2		1科目選択
保健・体育Ⅴ	1					1	
社会科学Ⅰ	2					2	1科目選択
社会科学Ⅱ	2					2	
社会科学Ⅲ	2					2	
英語Ⅴ	2					2	
海外英語演習	1				1		
小 計	27			(1)	17(1)	9(1)	
開設単位合計	102	28	26	19(1)	19(1)	9(1)	

備考欄に※印のある科目の単位は、高等専門学校設置基準第17条第4項により認定される。1単位当たり45時間の学修により単位認定を行う。

計欄の（ ）数字は、いずれかの学年で習得できる単位（外数）

選択科目（詫間キャンパス）

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
文学特論Ⅱ	2				2		
自然特論	1					1	
数学概論Ⅰ	1				1		
数学概論Ⅱ	1				1		
数学概論Ⅲ	1					1	
英語特論Ⅰ	2				2		
英語特論Ⅱ	2					2	
中国語Ⅰ	2				2		
中国語Ⅱ	2					2	
社会特論	2				2		
グローバル・スタディーズ	2					2	
保健・体育Ⅴ	1					1	
海外英語演習	1				1		
教育支援活動	1				1		
小 計	21	(1)	(1)	(2)	10(2)	9(2)	
開設単位合計	96	28(1)	26(1)	19(2)	12(2)	9(2)	

計欄の（ ）数字は、いずれかの学年で習得できる単位（外数）

■主な実験等設備

	室 名	主 な 設 備
高松キャンパス	物理実験室	分光器、誘導コイル
	化学実験室	スパッタ装置、PHメータ、スクラバー付きドラフトチャンバー
	語学演習室	46ブース、ラップトップコンピュータ46台、e-learning
詫間キャンパス	物理実験室	視聴覚機器、比電荷測定装置
	化学実験室	超純水製造装置、スクラバー付きドラフトチャンバー、器具乾燥機
	マルチメディアラーニング・ラボ	45ブース、コンピュータ45台、e-learning



外国人による英語授業



一般教育科棟（高松キャンパス）



一般教育科棟（詫間キャンパス）

創造基礎工学系〔高松キャンパス〕

機械工学科 Department of Mechanical Engineering

私たちの身近にあるあらゆる工業製品は高度な機械技術の産物であり、機械技術者の果たすべき役割は広く、かつ、重要です。そして、近年の技術革新により、コンピュータとエレクトロニクスが機械技術分野にも深く浸透しています。

そこで、機械工学科では、「力学を中心とした機械工学の知識とそれを応用した設計力を柱として、コンピュータ支援工学や電気工学などの周辺技術を身につけた、幅広い産業分野において創造力を発揮できる機械技術者を育成する」ことを目的としています。

■学科の教育目標

1. 数学、物理学などの自然科学や機械工学に関連する基礎知識を身につける。
2. 問題解決に取り組み、自主的、継続的に技術的問題に取り組む力を身につける。
3. 技術者としての社会に対する責任や倫理観について考える力を身につける。
4. 記述、説明、発表、あるいは討論できる論理的な思考力やプレゼンテーション能力を身につける。

■教育内容

1. 機械工学科では、実際に製品ができるまでを学び易くするため、その逆の流れ「製品→加工→設計(知能)→解析」を重視し、低学年では専門科目をスムーズに取り組めるように創造基礎工作実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを柱に、基礎機械力学、機械設計製図Ⅰ・Ⅱ、機械要素設計Ⅰ、加工学、プログラミング基礎や材料力学Ⅰなどを配置しています。
2. 4年次では、3年次までの学習内容をさらに発展させた材料力学Ⅱや機械要素設計Ⅱを始めとして、熱力学や水力学などの機械工学を形成する4大力学を学びます。また、総合的な設計力を高めるため、4単位のCADⅡを設定しています。
3. 5年次では、準学士課程の最終学年として、振動工学や制御工学の必修科目の他、伝熱工学、流体力学Ⅰ・Ⅱ、システム工学Ⅰ・Ⅱや計算力学など機械技術者にとり非常に有用な選択科目を履修できるようにカリキュラムを設定しています。また、卒業研究では、実験や解析技術などを駆使したテーマを設定し、基礎知識の修得と応用力の探求に努めています。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目〔本科(準学士課程)／専攻科(学士課程)〕
教授	工学修士	山崎 容次郎 YAMASAKI, Yojiro	コンピュータ工学, 制御工学, メカトロニクス機構学, 機械工学実験Ⅰ・Ⅱ
	博士(工学)	岩田 弘(兼任) IWATA, Hiromu	機械工学入門, 工業物理Ⅰ, 振動工学, 機械工学実験Ⅰ・Ⅱ／工学実験・実習Ⅱ
	博士(工学)	木原 茂文 KIHARA, Shigefumi	材料力学Ⅲ, 弾性力学, 機械工学実験Ⅰ／計算力学特論, 弾塑性力学, 工学実験・実習Ⅱ
	博士(工学)	橋本 良夫 HASHIMOTO, Yoshio	基礎機械力学, 工業物理Ⅱ, 機械数学, 計算力学／振動工学特論
	博士(工学)	小島 隆史 KOJIMA, Takafumi	熱力学, 伝熱工学, 熱機関, 数値計算法Ⅰ, 機械工学実験Ⅱ／内燃機関工学
准教授	博士(工学)	吉永 慎一 YOSHINAGA, Shinichi	プログラミング基礎, 電気工学, 電子工学, 数値計算法Ⅱ, システム工学Ⅰ・Ⅱ, 機械工学実験Ⅱ
	博士(工学)	上代 良文 JODAI, Yoshifumi	機械設計製図Ⅱ, CADⅡ, 水力学, 流体力学Ⅰ・Ⅱ, 技術科学英語Ⅰ・Ⅱ, 機械工学実験Ⅰ
	博士(工学)	伊藤 勉 ITO, Tsutomu	
講師	博士(工学)	高橋 洋一(兼任) TAKAHASHI, Yoichi	加工学, 創造基礎工作実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 機械工学実験Ⅰ, 機械要素設計Ⅱ／工学実験・実習Ⅰ
助教	博士(工学)	前田 祐作 MAEDA, Yusaku	機械設計製図Ⅰ, 材料力学Ⅰ・Ⅱ, 機械工学実験Ⅰ／工学実験・実習Ⅱ

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	2			2		
	工業物理Ⅰ	2		2			
	機械工学入門	1	1				
	基礎機械力学	1		1			
	材料力学Ⅰ	2		2			
	材料力学Ⅱ	2			2		
	加工学	2		2			
	機械要素設計Ⅰ	1		1			
	機械要素設計Ⅱ	2			2		
	材料工学Ⅰ	2			2		
	振動工学	2				2	
	熱力学	2			2		
	水力学	2			2		
	電気工学	2		2			
	制御工学	2				2	
	プログラミング基礎	2	2				
	数値計算Ⅰ	2		2			
	機械設計製図Ⅰ	2	2				
	機械設計製図Ⅱ	2		2			
	CADⅠ	3		3			
	創造基礎工作実習Ⅰ	3	3				
	創造基礎工作実習Ⅱ	3		3			
	創造基礎工作実習Ⅲ	2		2			
	機械工学実験Ⅰ	3			3		
	機械工学実験Ⅱ	3				3	
	卒業研究	8				8	
小計		60	6	8	16	15	15
選択科目	機械数学	2				2	
	工業物理Ⅱ	2			2		
	材料力学Ⅲ	1				1	
	弾性力学	1				1	
	材料工学Ⅱ	1				1	
	伝熱工学	1				1	
	流体力学Ⅰ	1				1	
	電子工学	2			2		
	コンピュータ工学	2			2		
	メカトロニクス機構学	1				1	
	システム工学Ⅰ	1				1	
	数値計算Ⅱ	2			2		
	計算力学	2				2	
	CADⅡ	4			4		
	技術科学英語Ⅰ	1				1	
	技術科学英語Ⅱ	1				1	
	材料強度学	1				1	
	熱機関	1				1	
	システム工学Ⅱ	1				1	
	流体力学Ⅱ	1				1	
	特別講義Ⅰ	1				1	
	特別講義Ⅱ	1				1	
	校外実習	1				1	
	技術科学フロンティア概論	1				1	集中講義
小計		33			12(2)	19(2)	
開設単位数合計		93	6	8	16	27(2)	34(2)

計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位 (外数)

■主な実験設備

室名	主な設備
工作実験室	超精密加工機、ワイヤ放電加工機、ホブ盤、精密旋盤、切削動力計
工作測定室	非接触式三次元測定機、表面粗さ測定機、微小硬度計、万能投影機
材料力学実験室	300kN 万能材料試験機、ねじり試験機、衝撃試験機、回転曲げ疲労試験機
材料実験室	金属顕微鏡、熱処理炉、ビデオマイクロスコープ、各種硬度計、強加工装置
振動工学実験室	動電形加振機、振動計、FFTアナライザー
流体・風洞実験室	風速 40m/s 低乱風洞装置、熱線流速計、流体力学実験装置
熱工学実験室	熱交換器実験装置
内燃機関実験室	内燃機関性能試験装置、エンジン燃焼解析装置、排気ガス分析装置
制御工学実験室	DCサーボモータ実験装置、ベーシックFA学習キット
電子工学実験室	オシロスコープ、デジタルマルチメータ、ファンクションジェネレータ、直流電源
実習工場	旋盤、CNC 旋盤、マシニングセンタ、フライス盤、研削盤、ボール盤



トマト収穫ロボットによる収穫実験



実習工場



CAD室での授業風景



ソーラーカーとエコカー

■主な取り組み

機械工学科では、座学や多くの実験実習を学ぶだけでなく、コミュニケーション力を有した実践的な機械技術者の育成を目指し、各種マシンを設計製作し大会に出場することを積極的に推進しています。例として、上に示した写真はソーラーカーレースとエコカーレースの全国大会の様態です。これまで、素晴らしい成績を収めています。

電気情報工学科 Department of Electrical and Computer Engineering

電気情報工学科では、技術の高度化が進展する社会の中でも活躍し続けることのできる電気電子技術者及び情報通信技術者の育成を目指しています。そのため、数学・物理などを中心とした基礎学理や専門の基礎をじっくりと学び、その上に専門応用技術を学習し、技術者となるための基礎を習得します。これらと共に回路設計や卒業研究、組込み技術教育を軸とした各種実験・実習などを行い、技術者にとって必要な実践力や創造性、ならびに、ものづくりを行っていく上で欠かせないチームワークや協調性を身につけていきます。

■学科の教育目標

1. 技術の産物が社会や自然に及ぼす影響を判断できる力と責任感、倫理観を持つ。
2. 数学や物理等の基礎学理と専門基礎工学を十分に習得し、専門応用分野の急速な技術の進展に追従でき、生涯にわたる学習能力を有する。
3. 自主的に課題に取り組む姿勢と能力を身につけ、互いに協力して課題に取り組める。
4. 論理的な記述・表現ができる。

■教育内容

1. 低学年では、電気・電子・情報工学の専門を学ぶための導入科目として、電気基礎数学、電気基礎、電子工学基礎、計測工学基礎、情報処理基礎等の科目をくさび形に配置し、専門分野に対する興味を喚起させるとともに、専門工学を学ぶための基礎を養います。
2. 高学年では、工業数学、電気回路、電磁気学を配置し、電気・電子・情報工学の専門科目を学ぶための基礎を養います。それと共に、エネルギー環境工学、オペレーティングシステム、情報通信ネットワーク、計算機ハードウェア等を学ばせることにより、専門リテラシー、プログラミング能力を養います。
3. また、高学年では、電気・電子系科目と情報・通信系科目から構成される選択科目から希望する科目を学習させ、自らの方向性を見いださせながら、専門応用能力や生涯にわたる学習能力を高めます。
4. 回路設計や卒業研究、組込み技術教育を軸とした実験・実習を通して、実行力やコミュニケーション能力を養います。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目 [本科 (準学士課程) / 専攻科 (学士課程)]
教 授	工学博士	鹿間 共一 SHIKAMA, Tomokazu	電子工学基礎, 電気電子材料, 半導体物理/電子物性, 半導体工学
	博士 (工学)	重田 和弘 (兼担) SHIGETA, Kazuhiro	情報処理基礎, アルゴリズム, マルチメディア工学/情報通信工学
	博士 (工学)	辻 正敏 TSUJI, Masatoshi	電子回路/マイクロ波工学, 集積回路
准教授	博士 (工学)	漆原 史朗 URUSHIHARA, Shiro	電気回路, 制御理論/現代制御理論, エネルギー変換工学
	博士 (工学)	太良尾 浩生 TARAO, Hiroo	電磁気学/環境電磁工学
	博士 (工学)	村上 幸一 MURAKAMI, Yukikazu	情報処理基礎, 情報数学基礎, オペレーティングシステム
講 師	博士 (工学)	柿元 健 KAKIMOTO, Takeshi	電気基礎数学, 統計データ処理/プロジェクト管理論
助 教	博士 (情報学)	雛元 洋一 HINAMOTO, Yoichi	デジタル計測制御, 信号処理
	博士 (工学)	山本 雅史 YAMAMOTO, Masashi	電子情報創造工学実験実習 I

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	工業数学Ⅰ	2		2			
	工業数学Ⅱ	2			2		
	物理学基礎	2		2			
	電気基礎数学	2	2				
	電気基礎Ⅰ	2	2				
	電気基礎Ⅱ	2		2			
	電磁気学Ⅰ・同演習	3			3		
	電気回路Ⅰ・同演習	3			3		
	電気物理	1	1				
	電子工学基礎	2		2			
	計測工学基礎	2		2			
	情報数学基礎	1	1				
	論理回路	1		1			
	情報処理基礎Ⅰ	2	2				
	情報処理基礎Ⅱ	2	2				
	情報処理基礎Ⅲ	2		2			
	オペレーティングシステム	2			2		
	情報通信ネットワーク	2			2		
	計算機ハードウェア	2			2		
	エネルギー環境工学	2				2	
	電子情報創造工学実験Ⅰ	2	2				
	電子情報創造工学実験Ⅱ	2	2				
	電子情報工学実験Ⅰ	3		3			
	電子情報工学実験Ⅱ	3			3		※
	電子情報工学応用実験	3				3	※
	卒業研究	6				6	※
	特別実習	1				1	4.5 年通年科目
	回路設計	2				2	
	小 計	61	6	8	16	17	14
選択科目	工業数学Ⅲ	2			2		
	物理学	2			2		
	電磁気学Ⅱ・同演習	3			3		
	電気回路Ⅱ・同演習	3			3		
	電子回路Ⅰ・同演習	4			4		
	半導体物理	2			2		
	アルゴリズム	2			2		
	科学技術英語	2				2	
	通信工学	2				2	
	制御理論	2				2	
	デジタル計測制御	2				2	
	情報・符号理論	2				2	
	統計データ処理	2				2	
	信号処理	2				2	
	電気電子材料	2				2	
	インターフェース	2				2	
	電子回路Ⅱ・同演習	2				2	
	マルチメディア工学	2				2	
	電子デバイス	2				2	
	コンピュータシミュレーション	2				2	
	校外実習	1			1		※
	特別講義Ⅰ	1			1		
	特別講義Ⅱ	1			1		
	技術科学フロンティア概論	1			1		※集中講義
	小 計	48			18(4)	26(4)	
開設単位数合計		109	6	8	16	35(4)	40(4)

4・5 年で開設する科目の単位数は、実験・実習科目（備考欄に※印のあるもの）を除きすべて高等専門学校設置基準第 17 条第 4 項により認定される。1 単位当たり 45 時間の学修により単位認定を行う。計欄の（ ）数字は、いずれかの学年で修得できる単位（外数）

■主な実験設備

室 名	主 な 設 備
計測制御実験室	SCR インバータ、電気機器実習装置、ヘリウムネオンレーザ、半導体レーザ、光パワーメータ
電子情報実験室	カーブトレーサ、ロジックアナライザ、マイクロ波実験装置、プリント基板加工機
材料実験室	デジタル超高温抵抗計、液体窒素クライオスタット、膜厚計、グリーンレーザ
パワーエレ実験室	ホッピングロボット、リニアモータ位置決めシステム、倒立振り子実習装置、画像処理システム
電磁環境実験室	平等磁界暴露装置、磁界測定器、ワークステーション
電子工学実験室	オシロスコープ、発振器、直流電源、デジタル周波数計、パルス回路実習装置
音響情報実験室	無響室、音響測定装置、超音波検出器
情報通信工学実験室	論理解実習装置、半導体素子実習装置、演算回路実習装置、AD/DA 変換実習装置



座学



組込み実習



遠隔授業



回路設計（電子回路）

■主な取り組み

電気情報工学科では「組込み技術」を軸とした実験・実習を行っています。特に組込み技術によるシステム開発では、ソフトウェアの知識だけではなく、ハードウェアの知識も必要とされることから、本科では回路設計科目などにより、ハードウェア技術の教育にも力を入れています。また最終的には、総合的な組込み制作実習課題を実施することにより、技術者として必要な実践力や創造性を育成する教育を行っています。

これら学生教育に加え、組込み技術セミナーや専門講習会など各種セミナーを開催し、地域技術者教育にも貢献しています。

機械電子工学科

Department of Electro-Mechanical Systems Engineering

機械工学、電気電子工学及びコンピュータ制御技術の融合した技術分野をメカトロニクスと呼びます。メカトロニクス技術を利用し、高機能な機械システムの設計・開発、生産・製造、運用・保守、検査・修理など（以上を総称して「モノづくり」という）に携わる実践的技術者の育成を目的にしています。

社会の要求に合わせた機械システムに係わるモノづくりのために、複数の技術分野にわたる基礎知識を活かし、課題を発見し解決する能力や、チーム作業における協調性やコミュニケーション能力を身につけ、全体を見渡してとりまとめを行う技術者の育成を目指します。

■学科の教育目標

1. 社会や文化に関する教養を身につけ、機械システムが社会や自然に及ぼす影響を考える能力を身につける。
2. メカトロニクス技術を利用し、高機能な機械システムの開発・生産に携わる能力を身につける。
3. メカトロニクス分野の知識を基に、与えられた課題に対し、創造性を発揮して問題解決する能力を身につける。
4. 論理的な説明能力と簡単な英語でのコミュニケーション能力を持ち、社会性・協調性を発揮し行動する能力を身につける。

■教育内容

1. 低学年（1年生～3年生）では、機械工学と電気電子工学、情報技術に関する授業科目をバランス良く配置し、機械電子工学科の専門基礎について学ばせます。
2. 低学年の実験実習では、機械系テーマと電気電子系テーマをそれぞれの分野の講義と連携して実施し、教室で学んだ知識を定着させます。
3. 高学年（4年生、5年生）では、機械工学、電気電子工学、制御・情報技術、メカトロニクスに関する発展科目を開講し、各分野の知識習得やコミュニケーション能力、課題解決能力向上を図ります。
4. 5年生では、卒業研究を通じて実践的な課題解決能力を高めます。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授	博士（工学）	平岡 延章 HIRAOKA, Nobuaki	基礎物理学Ⅰ・Ⅱ，創造機械電子基礎実験実習Ⅲ／メカトロニクス
	博士（工学）	十河 宏行 SOGO, Hiroyuki	メカトロニクス基礎Ⅲ，ロボット工学／動力学特論
	博士（工学）	徳永 秀和 TOKUNAGA, Hidekazu	情報処理Ⅰ・Ⅱ，情報ネットワーク，統計解析／最適化論
准教授	博士（工学）	由良 諭 YURA, Satoshi	メカトロニクス基礎Ⅱ，電気回路／制御工学特論Ⅱ
	博士（材料科学）	相馬 岳 SOUMA, Takeshi	機械材料学Ⅰ・Ⅱ，加工学基礎，創造機械電子基礎実験実習Ⅱ／エネルギー工学特論
	博士（工学）	嶋崎 真一 SHIMASAKI, Shin-ichi	機械電子数学，流体工学Ⅰ・Ⅱ，熱工学Ⅰ・Ⅱ，機械計測／伝熱工学特論
	博士（工学）	逸見 知弘（兼任） HENMI, Tomohiro	メカトロニクス基礎Ⅲ，システム制御工学Ⅰ・Ⅱ／制御工学特論Ⅰ
	博士（工学）	正箱 信一郎 SHOBAKO, Shinichiro	メカトロニクス基礎Ⅱ，材料力学基礎Ⅰ・Ⅱ，機械電子工学実験Ⅰ／先端接合工学
講 師	博士（医学）	石井 耕平 ISHII, Kohei	メカトロニクス基礎Ⅰ，創造機械電子基礎実験実習Ⅲ，工業力学，機械設計工学，機械力学
助 教	博士（工学）	津守 伸宏 TSUMORI, Nobuhiro	メカトロニクス基礎Ⅰ，創造機械電子基礎実験実習Ⅰ・Ⅱ，電子回路／工学実験・実習Ⅰ

■教育課程

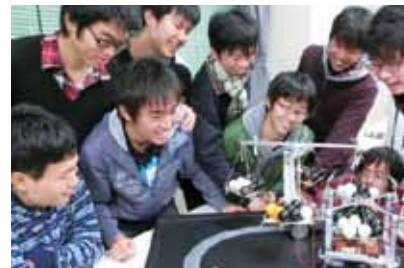
授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	2			2		
	機械電子数学	2			2		
	基礎物理学Ⅰ	2		2			
	基礎物理学Ⅱ	2				2	
	加工学基礎	2	2				
	工業力学	2		2			
	材料力学基礎Ⅰ	2		2			
	機械材料Ⅰ	2			2		
	熱工学Ⅰ	1			1		
	流体工学Ⅰ	1			1		
	電気回路	2		2			
	電子回路	2			2		
	情報処理Ⅰ	2		2			
	メカトロニクス基礎Ⅰ	3	3				図学を含む
	メカトロニクス基礎Ⅱ	3		3			
	メカトロニクス基礎Ⅲ	3			3		
	メカトロニクスシステム設計	1			1		
	システム制御工学Ⅰ	2			2		
	技術科学表現演習Ⅰ	1		1			
	技術科学表現演習Ⅱ	1			1		
選択科目	創造機械電子基礎実験Ⅰ	3	3				
	創造機械電子基礎実験Ⅱ	3		3			
	創造機械電子基礎実験Ⅲ	2			2		
	機械電子工学実験Ⅰ	5			5		
	機械電子工学実験Ⅱ	3				3	
	卒業研究	6				6	
	小計	60	6	8	16	19	11
	機械設計工学	2			2		
	材料力学基礎Ⅱ	2			2		
	機械材料Ⅱ	1				1	
	熱工学Ⅱ	1				1	
	流体工学Ⅱ	1				1	
	半導体工学基礎	2				2	
	情報処理Ⅱ	2			2		
	情報処理Ⅲ	2				2	
	システム制御工学Ⅱ	2				2	
	機械力学	2				2	
	ロボット工学	2				2	
	機械計測	1				1	
	統計解析	2				2	
	工業技術英語	2				2	※
集中講義	情報ネットワーク	2				2	※
	接合工学	2				2	※
	レーザ工学	2				2	※
	電磁気学	2				2	※
	電子計測	2				2	※
	センサ工学	2				2	※
	計画法	2				2	※
	特別講義Ⅰ	1				1	
	特別講義Ⅱ	1				1	
	校外実習	1				1	
	技術科学フロンティア概論	1				1	
	小計	42				6(4)	32(4)
開設単位数合計		102	6	8	16	25(4)	43(4)

備考欄に※印のある科目の単位は、高等専門学校設置基準第17条第4項により認定される。1単位当たり45時間の学修により単位認定を行う。

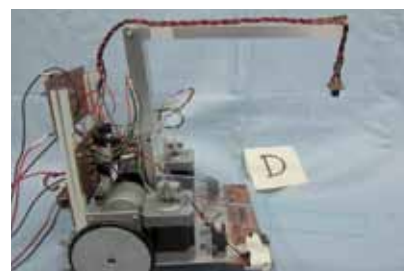
計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■主な実験設備

室名	主な設備
材料実験室	金属顕微鏡、熱処理炉、ビデオマイクロスコープ、各種硬度計、強加工装置
材料力学実験室(恒温恒湿室)	300kN 万能試験機、ねじり試験機、衝撃試験機、回転曲げ疲労試験機
熱工学実験室	高周波誘導炉、エレクトロメカニクス変位計、高速度ビデオカメラ、熱交換器実験装置
電子工学実験室/電子制御実験室	オシロスコープ、デジタルマルチメータ、ファンクションジェネレータ、電子電圧計、ユニバーサルカウンタ、直流電源、PCB-CAD/CAM
CAD室	プロジェクタ、パーソナルコンピュータ、3次元CAD
演習室	プロジェクタ、パーソナルコンピュータ、3次元CAD、3Dプリンタ
制御工学実験室	温度制御実験装置、水位制御実験装置
FA実習室	3Dモデリングマシン、立てフライス盤、ボール盤、帯鋸盤
工作測定室	空気マイクロメータ、オートコロメータ、指針計微器、工具顕微鏡
実習工場	旋盤、ボール盤、フライス盤、鋸盤、マシニングセンタ、各種溶接機



メカトロニクスシステム設計



自律型ロボット製作例



機械部品の加工・製作



電子部品の試験・調査

■主な取り組み

低学年(1年生～3年生)の専門科目では、40名クラスを2つに分けた少人数授業(メカトロニクス基礎、実験実習)を取り入れ、理論的な表現力を培う日本語修辭法の授業(技術科学表現演習)を開講します。高学年(4年生・5年生)では、低学年で学んだ知識を実践し課題解決能力を養う実践科目(メカトロニクスシステム設計/機械電子工学実験Ⅰ、卒業研究)を開講し、「モノづくり」をキーワードに広く関連分野を学習します。

建設環境工学科 Department of Civil Engineering

建設環境工学科では、土木工学を中心に、安全で安心な公共の建設構造物の設計・施工・計画の基礎的な技術を身につけ、社会的にも大きな課題となっている環境保全技術、防災・減災技術、維持・管理・修繕技術、リサイクル技術、コンピュータ利用技術などの応用分野にも対応できる建設技術者の育成を目指しています。そのために、専門を学ぶための基礎的な学力を土台に専門基礎技術や専門応用技術を学習し、建設環境技術者となるための基礎学力の習得を重視しています。また、専門技術の習得を確実にするために、実験・実習、設計製図や創成工学などのデザイン系科目などを学習することにより、建設環境技術者として必要な実践力や創造力を涵養するとともに、発表会や報告会などを通してコミュニケーション能力を身につけていきます。

■学科の教育目標

1. 広い視野を持ち、環境問題やエネルギー問題などを認識し、技術者としての倫理観を高める。
2. 数学、物理などの自然科学に関する基礎知識を持ち、それを土台として専門基礎技術を習得する。
3. 各種実験・実習、設計製図やデザイン系科目などの学習により、実践力や創造力を涵養する。
4. 多くの様々な報告書作成やその発表を通してコミュニケーション能力を高める。

■教育内容

1. 第1、2学年では、一般教養科目を中心に学習すると同時に、専門は工学基礎、測量、基礎力学Ⅰ、基礎情報処理などの科目を配置して専門基礎技術を学ぶための導入としています。
2. 第3学年では、一般教養科目と専門基礎科目をほぼ同等に配置し、特に専門は構造力学Ⅰ、基礎力学Ⅱ、建設材料学などを柱とする構造物の設計や施工にかかわる重要な専門基礎技術に関する知識を学びます。
3. 第4、5学年では、ほとんどが専門科目であり、鋼構造物・コンクリート構造物の設計、環境工学、計画学などの専門応用技術の一部が配置され、実験・実習、設計製図や創成工学などのデザイン系科目、卒業研究などにより、実践力、創造力、総合力を高めます。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）／専攻科（学士課程）〕
教 授	博士（工学）	小竹 望 KOTAKE, Nazomu	土の力学、建設工法学、地盤工学、実験実習Ⅱ／連続体力学、環境防災工学Ⅰ
	博士（工学）	向谷 光彦（兼任） MUKAITANI, Mitsuhiro	図学基礎、工学基礎、基礎力学Ⅱ、防災工学基礎、地域防災学／環境防災工学Ⅱ、情報システム
准教授	博士（工学）	宮崎 耕輔 MIYAZAKI, Kosuke	測量学Ⅱ、地域整備学、建設創造基礎実験実習Ⅱ／建設数理計画学、実験実習Ⅱ
	博士（工学）	多川 正 TAGAWA, Tadashi	環境原論、環境工学Ⅰ・Ⅱ、環境アセスメント、実験実習Ⅲ、環境工学特論、地域環境学／環境倫理・マネジメント
	博士（工学）	林 和彦 HAYASHI, Kazuhiko	建設構造設計学、設計製図Ⅰ・Ⅱ、実験実習Ⅱ／耐震設計学、コンピュータ構造解析
	博士（工学）	柳川 竜一 YANAGAWA, Ryoichi	応用情報処理、水理学、実験実習Ⅲ、海岸工学、情報処理工学、応用数学Ⅱ、実験実習Ⅲ／流体力学特論
講 師	博士（工学）	今岡 芳子 IMAOKA, Yoshiko	測量学Ⅰ、数理演習、建設創造基礎実験実習Ⅰ、計画学基礎／社会基盤計画学
助 教	博士（農学）	高橋 直己 TAKAHASHI, Naoki	基礎情報処理、基礎力学Ⅱ、河川水文学、工学演習Ⅱ、応用データ処理学、実験実習Ⅱ・Ⅲ
	博士（農学）	鈴木 麻里子 SUZUKI, Mariko	構造力学Ⅰ・Ⅱ、基礎力学Ⅰ、実験実習Ⅱ、構造工学
	博士（農学）	長谷川 雄基 HASEGAWA, Yuki	建設材料学、実験実習Ⅰ、工学演習Ⅰ

教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	物理学基礎Ⅰ	2		2			
	建設応用数学Ⅰ	2			2		
	工学基礎	2	2				
	図学基礎	1	1				
	基礎力学Ⅰ	2		2			
	基礎力学Ⅱ	2		2			
	構造力学Ⅰ	3		3			
	建設材料科学	2		2			
	建設構造設計学	3			3		
	防災工学基礎	2			2		
	地域防災学	1				1	
	環境原論	1		1			
	環境工学Ⅰ	2		2			
	地域環境学	1				1	
	基礎情報処理	2		2			
	応用情報処理	2		2			
	測量学Ⅰ	1	1				
	測量学Ⅱ	1		1			
	計画学基礎	2			2		
	地域整備学	1				1	
	建設環境工学演習Ⅰ	1		1			
	建設環境工学演習Ⅱ	1			1		
	建設環境工学演習Ⅲ	1				1	
	創成工学	2			2		
	建設創造基礎実験実習Ⅰ	2	2				
	建設創造基礎実験実習Ⅱ	2		2			
	建設環境工学実験実習Ⅰ	2		2			
	建設環境工学実験実習Ⅱ	2			2		
	建設環境工学実験実習Ⅲ	2				2	
	建設環境工学設計製図Ⅰ	2			2		
	建設環境工学設計製図Ⅱ	2				2	
	卒業研究	6				6	
	小 計	60	6	8	16	16	14
選択科目	物理学基礎Ⅱ	1			1		
	建設応用数学Ⅱ	1				2	
	電気工学概論	1				1	
	構造力学Ⅱ	2			2		
	土の力学	2			2		
	水理学	2			2		
	建設工法学	2			2		
	河川水文学	1				1	
	海岸工学	1				1	
	環境工学Ⅱ	2			2		
	環境アセスメント	2				2	
	応用データ処理学	2				2	
	測量学Ⅲ	2				2	
	構造工学	2			2	※	
	地盤工学	2				2	※
	情報処理工学	2				2	※
	建築構造学	2				2	※
	環境工学特論	2				2	※
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1			1		※
	特別講義Ⅱ	1				1	
	技術科学フロンティア概論	1				1	集中講義
	小 計	36			12(2)	22(2)	
開設単位合計		96	6	8	16	28(2)	36(2)

備考欄に※印のある科目の単位は、高等専門学校設置基準第17条第4項により認定される。1単位当たり45時間の学修により単位認定を行う。

計欄の() 数字は、いずれかの学年で習得できる単位(外数)

主な実験設備

室 名	主 な 設 備
構造工学実験室	構造物可変荷重装置、はり試験装置、デジタル静歪み計、動歪み計、ユニバーサルカウンター、多チャンネルデータ記録計、サーボ式二軸振動台、二次元実験土槽
材料工学実験室	3000kN 全自動圧縮試験機、歪制御式載荷装置、強制式コンクリートミキサー、コンクリート関連試験装置、コンクリート養生槽、データロガー、デジタル変位計、電子天秤
流体工学実験室	多目的三次元水路、可変開水路、造波水槽、刃型ぜき、管水路、波高計、各種測定器
地盤工学実験室	自動圧密試験機、50kN 万能圧縮試験機、繰返し三軸圧縮試験機、汎用大型一面剪断試験機、加圧型変水位透水試験機、B 型粘度計、高速度カメラ、各種土質試験機器
環境工学実験室	全有機炭素計、イオンクロマトグラフ、ガスクロマトグラフ、CHN コーダー、オートクレーブ、遠心分離器、超純水製造装置、酸性雨採取装置、電子天秤、恒温炉
器材室	GNSS 測量システム、地理情報システム、リモートセンシング、トータルステーション、デジタル式トランシット、オートレベル、光波測距儀、平板、プランメーター、実体顕鏡
製図室	製図板および製図台、トラス橋模型、各種製図用器具



鉄筋コンクリートはりの曲げ載荷実験



測量実習



河川構造物の実態調査



水質の分析

主な取り組み

建設環境工学学科では、様々な社会のニーズに対応できる技術者を育成するために、構造力学、土の力学、水理学、材料工学などの専門基礎技術の習得に力を注いでいます。同時に環境工学、防災工学、計画学、情報処理などを含めた幅広い知識と技術を習得します。習得した事項の達成度を評価する一助として、技術士(一次試験)、測量士・士補、国家公務員一般職、基本情報処理技術者、環境社会検定などの各種資格試験に挑戦することを奨励しています。また、環境保全ボランティア活動(ACO サークル)や学外団体との催物に参加するなど地域社会の人たちとの交流にも積極的に取り組んでいます。

電子情報通信工学系〔詫間キャンパス〕

通信ネットワーク工学科

Department of Communication Network Engineering

すべての産業・社会活動では今や情報通信が必要不可欠となっています。この社会の神経というべき情報通信を支えるのが、地球上に張り巡らされた電線、光ファイバ、電磁波からなるネットワークと無数のコンピュータです。

通信ネットワーク工学科は、この広くて魅力ある情報通信分野に貢献できる優秀なコミュニケーション技術者、コンピュータネットワーク技術者の養成を目的としています。第一級陸上特殊無線技士、第一級陸上無線技術士などの国家資格の取得に向けたカリキュラムを編成しています。

■学科の教育目標

1. 情報通信分野の技術に必要なコンピュータ、ネットワーク、エレクトロニクスの知識を身につけ技術者倫理を有する。
2. 無線・有線通信に関する資格を取得するとともに、技術の変化に対応できる。
3. 既成概念にとらわれず、工学技術の創意工夫と向上に努力し、共同作業ができる。
4. 情報機器を用い、情報収集、文書作成および発表ができる。

■教育内容

1. 低学年では電気電子分野基礎科目である電気回路、電気磁気学、電子回路、電子工学、電気電子計測に加え情報分野基礎科目である情報処理を学び、高学年では通信分野科目、ネットワーク分野科目を学びます。
2. 創造性を育む教育を重視し、第1学年から第5学年まで通して実験・実習を配置し、特に第4・5学年の通信工学実験では回路を設計・製作・評価する実験を行います。
3. 第4学年では卒業研究へと繋がる通信工学セミナー、第5学年では卒業研究を行い、創造性豊かな実践的コミュニケーションシステム技術者、コンピュータネットワーク技術者を輩出できる教育を行います。
4. 卒業時に第一級陸上特殊無線技士の資格取得ができるように科目を配置しています。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目〔本科（準学士課程）/専攻科（学士課程）〕
教 授	博士（工学）	福永 哲也 FUKUNAGA, Tetsuya	創造実験・実習、電子回路Ⅱ、回路理論/デジタル信号処理工学
	博士（工学）	塩沢 隆広 SHIOZAWA, Takahiro	デジタル回路Ⅰ、基礎工学実験/光通信工学、工業英語
	理学博士	澤田 士朗 SAWADA, Shiro	応用物理Ⅰ・Ⅱ、応用数学/量子力学
	博士（工学）	井上 忠昭（兼任） INOUE, Tadaaki	電気通信システムA・B、通信工学セミナー/通信工学
	博士（工学）	一色 弘三 ISSHIKI, Hiromi	電気回路Ⅱ、電気電子計測Ⅰ、確率統計、通信工学実験Ⅰ
	博士（工学）	横内 孝史 YOKOUCHI, Takashi	通信法Ⅰ、通信工学実験Ⅰ・Ⅱ
准教授	工学修士	真鍋 克也 MANABE, Katsuya	基礎工学実験・実習、電波伝送学Ⅰ、無線工学演習、アンテナ工学
	情報工学修士	高城 秀之 TAKAJO, Hideyuki	情報処理Ⅰ、コンピュータネットワークⅡ、ネットワークプログラミング/情報ネットワーク論
	博士（工学）	正本 利行 SHOHON, Toshiyuki	基礎電気工学、基礎工学実験、電気磁気学Ⅰ、電子回路Ⅰ
	博士（工学）	小野 安季良 ONO, Akira	無線通信工学Ⅰ・Ⅱ、無線工学演習/システム制御工学
	博士（理学）	桑川 一也 KUMEKAWA, Kazuya	情報処理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、データ通信
	博士（工学）	白石 啓一 SHIRAISHI, Keiichi	基礎工学実験・実習、基礎工学実験、コンピュータネットワークⅠ、情報セキュリティ
	博士（工学）	草間 裕介 KUSAMA, Yusuke	電気磁気学Ⅱ/応用電磁気学、電磁波・光波工学、無線工学特論
講 師	博士（工学）	川久保 貴史 KAWAKUBO, Takashi	電気回路Ⅰ、電子工学、半導体工学、電気電子計測Ⅱ

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
必修科目	応用数学	2			2		
	確率統計	2			2		
	応用物理Ⅰ	2		2			
	応用物理Ⅱ	2			2		
	基礎電気工学	2	2				
	情報処理Ⅰ	2	2				
	情報処理Ⅱ	2		2			
	デジタル回路Ⅰ	2	2				
	電気回路Ⅰ	2	2				
	電気回路Ⅱ	2		2			
	電気磁気学Ⅰ	2		2			※
	電気磁気学Ⅱ	2			2		※
	電子回路Ⅰ	2		2			
	電子回路Ⅱ	2			2		
	電気電子計測Ⅰ	2		2			
	電子工学	2		2			
	通信工学セミナー	4			4		
	創造実験・実習	4	4				
	基礎工学実験・実習	2		2			
	基礎工学実験	2		2			
選択科目	通信工学実験Ⅰ	3			3		
	通信工学実験Ⅱ	4				4	
	卒業研究	12				12	
	小 計	63	6	8	16	17	16
	情報処理Ⅲ	2			2		
	電気電子計測Ⅱ	2				2	
	無線通信工学Ⅰ	2			2		
	無線通信工学Ⅱ	2				2	
	電波伝送学Ⅰ	2			2		
	電波伝送学Ⅱ	2				2	
	電気通信システム A	2			2		
	電気通信システム B	2				2	
	通信法Ⅰ	1			1		
	通信法Ⅱ	1				1	
	コンピュータネットワークⅠ	2			2		
	コンピュータネットワークⅡ	2				2	
	情報理論	2				2	
	無線工学演習	2			2		
	データ通信	2				2	
	半導体工学	2			2		
	オプトエレクトロニクス	2				2	
	情報数学	2				2	
	情報セキュリティ	2				2	
	ネットワークプログラミング	2				2	
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1			1		集中講義
	特別講義Ⅱ	1				1	集中講義
	技術科学フロンティア概論	1				1	集中講義
	小 計	42			16(2)	24(2)	
	開設単位合計	105	6	8	16	33(2)	40(2)

※印は、学則第13条第4項により定める、45時間の学修をもって1単位とする科目である。卒業時には、一般科目と合計で167単位以上修得できるよう選択科目を履修すること。
計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■主な実験設備

室 名	主 な 設 備
電波暗室	EMI レシーバ、CVCF 電源、広帯域アンテナ、疑似電源回路網、吸収クランプ、ターンテーブル
フォトリソ実験室	サンプリングオシロスコープ、スペクトルアナライザ、ロジックスコープ
デジタル回路実験室	符号誤り率測定装置、光スペクトルアナライザ、光増幅器、光パワーメータ、波長可変光フィルタ
情報ネットワーク演習室	LAN 構築演習設備一式(ルータ、ハブ、無線 LAN、PC)、マイコン演習器材
電波応用実験室	レーダー、サテライトコンパス、AIS 受信機、無線方位測定機、無線送信機、通信型受信機、マイクロ波基本測定装置



ワイヤレス通信実験



レーダ探索



コンピュータリテラシー



コンピュータネットワーク

■主な取り組み

通信ネットワーク工学科では、コンピュータネットワークの分野で必要とされるエンジニアになるために、コンピュータとコンピュータあるいはコンピュータと端末の間の通信について基礎から応用までの技術を修得できます。インターネット検定、ドットコムマスター(ダブルスター)あるいはシスコ技術者認定 CCNA に合格できるスキルを目指します。

また、無線・有線通信に関する基礎から応用までの技術を修得できます。無線従事者国家資格に関係して「第一級陸上特殊無線技士」「第二級海上特殊無線技士」を取得でき、「第二級陸上無線技術士」国家試験の科目免除を受けられます。また、「工事担任者」国家試験の科目免除を受けられます。

電子システム工学科 Department of Electronic Systems Engineering

IT、エレクトロニクス、メカトロニクス技術の発展に伴い、エレクトロニクスの基礎から情報通信、コンピュータ、半導体デバイス、ロボット工学までの幅広い技術やそれらが融合した技術を持ったロボットエンジニア、デバイスエンジニアが嘱望されています。

電子システム工学科では、電子工学の基礎からロボット技術、半導体デバイス応用まで幅広い分野の授業を自分で選択し勉強します。また授業と「ものづくり」中心の創造実験を効果的に組み合わせ、楽しみながら創造性豊かで個性的なロボット・デバイスエンジニアの育成を目指します。

■学科の教育目標

1. 回路、半導体、コンピュータなどの専門科目を基礎として、デバイスやロボットに関する実践的な専門技術を身につける。
2. 広い視野を持ち、設計、製作、問題発見、問題解決ができる。
3. 計画を立案し、継続して課題に取り組むことができる。
4. 物事を論理的に考え、文章や口頭で発表できる。

■教育内容

1. 低学年では工学導入教育を積極的に取り入れ「ものづくり」の楽しさから興味を引き出し工学基礎科目へ結びつけるような教育を行います。また基礎専門科目はロボットエンジニア、デバイスエンジニアに必要な弱電基礎科目を基礎工学実験と連携し実験・実習と理論が同時に教育できるようなカリキュラムとしています。
2. 高学年ではロボットエンジニアコースとデバイスエンジニアコースの2つのコースを選択できるようにし、どのような分野へ就職・進学したいかを考えながら自分が進みたい分野の専門科目をセミナー、卒業研究と連携し教育します。
3. 電子システムセミナー、卒業研究では学生一人一人が自分の研究テーマを持ち、担当教員の指導の下で1年間にわたって研究を行います。新しい知識を得るだけでなく、ロボット・デバイスエンジニアとしての研究に対する姿勢を身につけ、将来エンジニアとしての仕事に対する取り組み方を学ぶことを重要視しています。
4. 低学年の工学導入教育、基礎専門科目、基礎工学実験から高学年の電子システムセミナー、卒業研究でグローバル教育を積極的に行います。座学では身につけにくいグローバルコミュニケーションを実験・実習、基礎専門科目で取り入れ、将来世界で活躍できるロボットエンジニア、デバイスエンジニアを目指します。

■教員

職 名	学 位	氏 名	主担当科目 [本科 (準学士課程) / 専攻科 (学士課程)]
教 授	博士 (工学)	三崎 幸典 MISAKI, Yukinori	創造実験・実習, 電子工学, 電子計測 / 知的財産権
	工学博士	長岡 史郎 (兼任) NAGAOKA, Shiro	半導体工学Ⅱ, 電子材料工学 / 計測工学特論, 集積回路工学
		矢木 正和 YAGI, Masakazu	半導体工学, オプトエレクトロニクス, 工学実験Ⅰ・Ⅱ
准教授	博士 (工学)	三河 通男 (兼任) MIKAWA, Michio	基礎電気工学, 電子回路Ⅰ, 電気通信システムA, データ通信
	修士 (教育学)	ジョンストン・ロバート・ウェストン JOHNSTON, Robert Weston	創造実験・実習, 電子システム特講, 情報処理Ⅱ / 工業英語
	博士 (工学)	月本 功 TSUKIMOTO, Isao	デジタル回路Ⅱ, 電子回路Ⅱ / 電子回路特論, 情報工学概論
	博士 (工学)	天造 秀樹 TENZOU, Hideki	創造実験・実習, 電気回路Ⅰ, 基礎工学実験, 電気磁気学Ⅱ
	博士 (工学)	森宗 太一郎 MORIMUNE, Taichiro	電気磁気学Ⅰ, 基礎工学実験, センサ工学 / 応用電子物性工学
講 師	博士 (工学)	清水 共 SHIMIZU, Tomo	電子回路Ⅰ, 応用物理Ⅱ, 工学実験Ⅰ, 電子物性工学
助 教	博士 (工学)	岩本 直也 IWAMOTO, Naoya	創造実験・実習, 電気回路Ⅱ, 基礎工学実験, 基礎電気回路
	博士 (工学)	杉本 大志 SUGIMOTO, Masashi	デジタル回路Ⅰ, 情報処理Ⅰ, 制御工学Ⅰ, システム工学

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	2			2		
	確率統計	2			2		
	応用物理Ⅰ	2		2			
	応用物理Ⅱ	2			2		
	基礎電気工学	2	2				
	電気回路Ⅰ	2	2				
	電気回路Ⅱ	2		2			
	電気磁気学Ⅰ	2		2			※
	電気磁気学Ⅱ	2			2		※
	電子工学	2		2			
	電子回路Ⅰ	2		2			
	半導体工学	2			2		
	デジタル回路Ⅰ	2	2				
	デジタル回路Ⅱ	2		2			
	情報処理Ⅰ	2	2				
	電子システムセミナー	4			4		
	創造実験・実習	4	4				
	基礎工学実験・実習	2	2				
	基礎工学実験	4		4			
	工学実験Ⅰ	4			4		
	工学実験Ⅱ	4				4	
	卒業研究	12				12	
小 計		64	6	8	16	18	16
選択科目	回路理論	2			2		
	電子回路Ⅱ	2			2		
	半導体デバイス工学	2				2	
	電子計測	2				2	
	電子物性工学	2				2	
	オプトエレクトロニクス	2				2	
	電子材料工学	2				2	
	制御工学Ⅰ	2			2		
	制御工学Ⅱ	2				2	
	ロボット工学	2				2	
	センサ工学	2				2	
	電子システム特講	2			2		
	情報システムⅠ	2			2		
	電気通信システム A	2			2		
	情報処理Ⅱ	2			2		
	データ通信	2				2	
	画像工学	2				2	
	システム工学	2				2	
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1			1		集中講義
	特別講義Ⅱ	1				1	集中講義
	技術科学フロンティア概論	1				1	集中講義
小 計		40			15(2)	23(2)	
開設単位合計		104	6	8	16	33(2)	39(2)

※印は、学則第13条第4項により定める、45時間の学修をもって1単位とする科目である。卒業時には、一般科目と合計で167単位以上修得できるよう選択科目を履修すること。
計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■主な実験設備

室 名	主 な 設 備
共通実験室	液晶チューナブルフィルター、冷却 CCD カメラ、マルチスペクトルイメージングシステム、ハイパースペクトルカメラ
計測工学実験室	電源電流テストによる開放故障検査装置、オシロスコープ、電流プローブ
計算機工学実験室	オシロスコープ、放射線検出器、アナログ波形計測処理システム
回路設計実験室	光電子分光装置、分光光度計、有機薄膜作製装置、光干渉型膜厚計、レーザ薄膜加工装置、原子間力顕微鏡
光エレクトロニクス実験室	蛍光分光光度計、量子効率測定システム、回折格子分光器、He-Cd レーザ、Ar イオンレーザ、極低温冷凍機
電子工学実験室	赤外線サーモグラフィ、汎用 3D プリンタ、3D スキャナ、卓上電子顕微鏡、無散瞳眼底カメラ、パルスオキシメーター
材料工学実験室	レーザ蒸着装置、スリットリング装置、ホール効果測定装置
プラズマ焼結実験室	X線回折装置 放電プラズマ焼結機



マインドストームを用いたロボット作製実験 (1・2年)



英語による電気回路基礎実験 (3年)



VHDLによるデジタル回路作製実験 (5年)



地域連携型卒業研究 (5年)

■主な取り組み

電子システム工学科の Keyword は「ものづくり」。低学年の楽しみながら工学に興味を持つための工学導入教育、授業と効果的にリンクした創造実験・実習、高学年での困難な問題に粘り強く取り組んで解決する問題解決能力を養う少人数設計製作実験、卒業研究では最先端の「ものづくり」に挑戦します。また実験実習科目や基礎専門科目でグローバル教育を積極的に取り入れ世界で活躍できるエンジニアを目指します。

また課外活動においても電子システム工学科の教員が中心となりロボットコンテスト、キャンパスベンチャーグランプリ、パテントコンテストなど「ものづくり」を積極的に取り入れた活動を推進しています。

「情報」それは人と計算機をつなぐもの

本学科の専門教育では、計算機の基礎と応用についての知識と技術を教授するとともに、実際に計算機を利用して様々な問題解決ができる能力を育成します。さらに、計算機システムおよびソフトウェアシステム、ネットワークを利用するシステムに対して、工学的な手法によるシステムの設計、開発および実現に関する能力の育成を目指します。

また、画像や音声を利用したソフトウェアの開発やコンピュータシステムを構築できる情報システムエンジニア、ブロードバンド・インターネットを活用したソフトウェアの開発やコンピュータネットワークを構築できるネットワークエンジニアを育てます。

■学科の教育目標

1. 広い視野を持ち、社会の要求する情報システムを設計・構築できる。
2. コンピュータの基礎から応用まで体系的に理解し、コンピュータを活用できる。
3. 主体的に問題を提起し、継続して課題に取り組み、解決できる。
4. 文章能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有する。

■教育内容

1. 基礎工学・理論、電気・電子工学、計算機システム、ソフトウェア、情報・通信システムおよびマルチメディア等関連技術の分野をバランスよく系統的に配置します。
2. 実務や新しい問題に創造的に立ち向かう方法や能力あるいは意欲を養うために、講義では、できる限り実習・演習をとりいれます。また、「卒業研究」等の問題解決型授業の教育効果を重視し、同様の形式で運用する「情報工学セミナー」を第4学年に導入します。
3. 工学実験では、実験を大きなテーマとして実施することにより、その中の個別の実験項目の意義を理解させます。また、テーマに対する巨視的な把握と理解を促し、これらを基礎に実践的かつ創造的な応用能力を育成します。
4. 情報工学関連技術の急激な進歩に対応できるように、選択科目の一部の内容については、柔軟な対応がとれるようにしています。

■教員

職名	学位	氏名	主担当科目〔本科（準学士課程）/専攻科（学士課程）〕
教授	工学博士	松下 浩明(兼担) MATSUSHITA, Hiroaki	創造実験・実習、情報構造論/アルゴリズムとデータ構造、グラフ理論
	博士(理学)	福岡 一巳 FUKUMA, Kazumi	応用物理Ⅱ、情報特論Ⅱ/工業数学
	博士(工学)	宮武 明義 MIYATAKE, Akiyoshi	情報処理Ⅰ、基礎情報工学、人工知能基礎/応用ネットワークプログラミング
	博士(工学)	徳永 修一 TOKUNAGA, Shuichi	創造実験・実習、通信理論、プログラミング言語/画像処理工学
		河田 進 KAWATA, Susumu	デジタル回路Ⅰ、デジタル回路Ⅱ、コンパイラ/オブジェクト指向プログラミング
		鯖目 正志 SAWARAME, Masashi	計算機アーキテクチャ、情報システムⅠ、データベース
准教授	博士(工学)	河田 純 KAWATA, Jun	基礎電気工学、電気回路Ⅰ、電気磁気学
	博士(工学)	金澤 啓三 KANAZAWA, Keizo	創造実験・実習、ソフトウェア設計論/マルチメディア工学
	修士(工学)	近藤 祐史 KONDOH, Yuji	通信システムⅠ、基礎情報工学、情報システムⅡ、オートマトン理論
	博士(理学)	奥山 真吾 OKUYAMA, Shingo	応用数学、確率統計、情報数学
	博士(エネルギー科学)	川染 勇人 KAWAZOME, Hayato	創造実験・実習、応用物理Ⅰ、数値解析
講師	博士(工学)	篠山 学 SASAYAMA, Manabu	情報処理Ⅰ、システムプログラミング、自然言語処理/データベース設計
	博士(理学)	谷口 億宇 TANIGUCHI, Yasutaka	創造実験・実習、基礎情報工学/アルゴリズムとデータ構造

■教育課程

授業科目	単位数	学年別単位数					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	応用数学	2			2		
	確率統計	2			2		
	応用物理Ⅰ	2		2			
	応用物理Ⅱ	2			2		
	基礎電気工学	2	2				
	電気回路Ⅰ	2	2				
	電子回路Ⅰ	2		2			
	デジタル回路Ⅰ	2	2				
	デジタル回路Ⅱ	2		2			
	基礎情報工学	2		2			
	計算機アーキテクチャ	2		2			
	情報処理Ⅰ	2	2				
	ソフトウェア設計論	4		4			
	情報工学セミナー	6			6		
	創造実験・実習	4	4				
	基礎工学実験・実習	2		2			
	基礎工学実験	2		2			
	工学実験Ⅰ	4			4		
	工学実験Ⅱ	3				3	
	卒業研究	12				12	
小 計		61	6	8	16	16	15
選択科目	情報数学	2			2		
	数値解析	2			2		
	通信理論	2			2		
	電気磁気学	2			2		※
	半導体工学	2				2	
	システム工学	2				2	
	オートマトン理論	2				2	
	情報構造論	2			2		
	プログラミング言語	2				2	
	システムプログラミング	2			2		
	システムソフトウェア	2				2	※
	コンパイラ	2				2	
	情報システムⅠ	2			2		
	情報システムⅡ	2				2	
	人工知能基礎	2			2		
	自然言語処理	2				2	
	画像工学	2				2	
	データベース	2				2	
	コンピュータネットワークⅠ	2			2		
	コンピュータネットワークⅡ	2				2	
	情報セキュリティ	2				2	
	情報特論Ⅰ	1			1		
	情報特論Ⅱ	1			1		
	校外実習	1				1	
	特別講義Ⅰ	1			1		集中講義
	特別講義Ⅱ	1				1	集中講義
	技術科学フロンティア概論	1				1	集中講義
小 計		48			19(2)	27(2)	
開設単位数合計		109	6	8	16	35(2)	42(2)

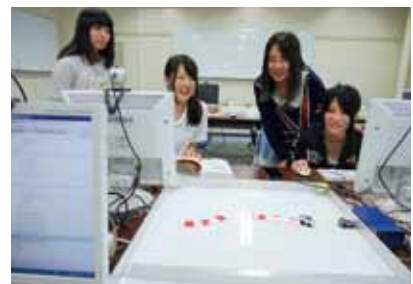
※印は、学則第13条第4項により定める、45時間の学修をもって1単位とする科目である。卒業時には、一般科目と合計で167単位以上修得できるよう選択科目を履修すること。
計欄の() 数字は、いずれかの学年で修得できる単位(外数)

■主な実験設備

室 名	主 な 設 備
制御回路実験室	3D入出力装置(3Dスキャナ、切削RPマシン)、3D CAD・CAMソフトウェア
基礎工学実験室	電子回路教育用設計・試作プラットフォーム、LabVIEW、電子回路シミュレータ
ネットワーク応用実験室	ネットワーク技術者育成実験システム(ルータ、L2、L3スイッチ)
NLP ラボ	大容量テキスト解析用サーバ
ICT ラボ	80型タッチディスプレイ



マイクロコンピュータ実験(3年)



コントロール実験



3Dコンテンツの制作(5年)



プログラミングコンテストのデモ風景

■主な取り組み

情報工学科は学生生活の支援を第1に考え、試験前と試験中の土曜日に「土曜フリースクール」(学生からの質問や進路相談、授業の補講、追実験、卒業研究などに本科教員が対応)、「公開面接練習会」(5年生を対象に本科教員が行う模擬面接)、「進路ガイダンス」(4年生を対象に進学・就職が内定した5年生の体験談や心構えなどの助言)、「第4、5学年における継続的な研究活動」(4年生から指導教員のもとで研究活動を開始し、5年生の卒業研究まで2年間継続して研究を行う)を実施しています。また、「全国高専プログラミングコンテスト」に参加する学生を積極的にサポートしています。

専攻科

香川高等専門学校専攻科は、科学技術創造立国を目指す我が国において、分析・解析能力、創造的課題解決能力及び研究開発能力を身に付け、様々な産業分野において指導的役割を担える創造性豊かな実践的技術者を社会に送り出すとともに、共同研究等とおして地元産業、地域社会への積極的な貢献を行うことを目的としています。

この目的を達成するために、本専攻科では、高松キャンパスに創造工学専攻、詫間キャンパスに電子情報通信工学専攻を置いています。

専攻科修了時には、学士（工学）の学位が独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から授与されます。本校専攻科には平成27年度より新たな審査方式による特例が適用されていますので、専攻科での審査によって学位が取得できます。また、大学院入学の資格も得られます。

専攻科の教育目標 〈育成しようとする技術者像〉

■創造工学専攻

1. 技術の産物が社会や自然に及ぼす影響を判断できる力と責任感、倫理観を養うため、人類、世界、文化に関心を持ち、視野の広い技術者を育成する。
2. 自然科学と専門技術の基礎を身につけ、それを具体的問題に応用できる技術者を育成する。
3. 自ら課題を発見して、自主的に取り組み解決する姿勢と能力を身につける。また互いに協力し合って課題に取り組める創造力豊かな技術者を育成する。
4. 物事を論理的に考えて、それを文章と口頭で明確に表現できる力を身につける。英語では基本的な記述、表現が行える語学力を身につけた技術者を育成する。

■電子情報通信工学専攻

1. 技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身につけた電子情報通信分野における実践的・高度開発型技術者を養成する。
2. 技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応できる技術者を養成する。
3. 与えられた課題を達成する手段を設計し、粘り強く問題解決に取り組むことができる技術者を養成する。
4. 情報機器を活用して情報収集や情報分析、文書作成、口頭発表ができ、日本語及び英語で共同作業ができる技術者を養成する。

■創造工学専攻（高松キャンパス）（入学定員 24 名）

創造工学専攻は、高専本科で修得した機械工学、電気情報工学、機械電子工学及び建設環境工学に関する分野の知識と技術を基礎として、より高度な専門知識を授けると共に、豊富な実験・実習、特別研究を通して問題解決能力、実行力を育成します。具体的には、以下に示す4つのコースのいずれかを選択し、技術者としての倫理観、責任感を育みながら、先進的実践的技術者の育成を目指します。

■機械工学コース

本コースは、機械工学の知識をベースに、社会性、経済性及び安全性に配慮し、既存の考え方だけでなく工夫考案したアイデアを設計指針に取り入れ、目的に合致した「モノづくり」を行うための幅広い思考力と独創性を身に付けた技術者を育成することを目標としています。

また、一方で、数学や力学などの機械工学に関する基礎知識に加え、先端技術である CAD / CAM（コンピュータ支援設計／製造）及び CAE（コンピュータ支援技術）、機械制御技術、情報処理技術などの科目をカリキュラムに取り入れ、機械工学を中心として工学全般にアプローチできる機械技術者を育成することを目標としたカリキュラムになっていることも特長です。

■電気情報工学コース

本コースは、本科で修得した電気回路や情報処理等の電気電子・情報通信分野における工学基礎と専門工学基礎を礎として、学習・教育目標をより高度な観点から完成させることを目的としています。また、最新のトピックを含めた専門科目を深く学ぶと共に、本科から一貫した研究テーマを追求し、その過程における討議、実験、推考を繰り返しながら着実に論理的な思考力と実行力を身につけることを目的とします。さらに、技術の習得を軸としながら、輪講や各種実習におけるコミュニケーションを通して技術者としての心構えや、人間性を確立することを目指します。

■機械電子工学コース

本コースは、本科の学習内容を継承して、機械工学、電子工学及びコンピュータ制御技術の融合したメカトロニクス分野の基礎知識と基本的問題への応用力をさらに高めるための教育を行います。また、講義、実験・実習、輪講、および充実した特別研究と学協会での研究発表等の経験をとおして、創意工夫して課題を解決する行動力、論理的な思考と表現力、幅広いコミュニケーション能力を身に付け、技術者としての責任感と倫理観を養います。これらの能力を基礎として、高度な機械システムの開発、設計および製作などの「モノづくり」を担う実践的技術者を育成することを目指します。

■建設環境工学コース

本コースでは、本科で修得した建設環境工学分野の知識と技術を基礎にして、より高度な専門的知識や技術を修得します。このために、建設環境工学分野のより高度な知識を得るための講義と共に、工学演習、実験実習、特別研究などの問題解決力、応用力、実行力、プレゼンテーション力などを養う科目を数多く開講しています。特別研究を特に重視しており、学外における論文発表や口頭発表を通して、論理的思考力、論文作成力、発表力などを養っています。

本コース修了生には、設計、計画、防災、環境などの専門知識を持った問題解決型建設技術者として、官公庁、コンサルタント、建設会社等への就職、及び大学院進学への道が開けています。

・電子情報通信工学専攻（詫間キャンパス）（入学定員 18 名）

本専攻では、専門性を深めながら、実践的で独創的な開発能力、コミュニケーション能力及び自律性を備えた技術者を育成します。そのため、本科 4 年次から専攻科 2 年次までの一貫した教育課程（教育プログラム）を用意しています。教育プログラムは 2 コース制で、日本技術者教育認定機構（JABEE）に準拠した「電子情報工学コース」、及び、専門知識や技術の修得を重視する「電子情報通信専修コース」があり、専攻科入学時に 1 つのコースを選択します。※（注）

教育課程は、「教養科目」、「工学基礎科目」及び「専門科目」で構成されます。本科の履修学科に対応した電子、情報、通信分野の推奨科目を設けているので、本科からの継続的な学修ができます。また、特別研究や特別実験・演習を重視しており、特に、2 年次にはチームでコミュニケーションを取りながらシステムを構築するエンジニアリング・デザイン教育を実施します。さらに、他専攻や大学等で修得した単位が規程の範囲内で認められます。

■電子情報工学コース

専門分野の高度な知識・素養を身につけ複合領域にも対応できる幅広い視野を持ち、高い問題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者の育成を目指します。大学や企業との共同研究、地域の産業振興に貢献できる研究や開発を行います。

修了生は国際的に技術レベルが保証され、技術士第一次試験が免除され、修習技術者となります。さらに、4 年間の実務経験の後、第二次試験に合格すると技術士になれます。

■電子情報通信専修コース

電子、情報、通信分野の高度な専門知識と技術を学び、職業に必要な能力を身につけることを目指します。教育課程は、電子情報工学コースと同一ですが、より柔軟な科目選択が可能です。

（注）：電子情報通信工学専攻の電子情報工学コースは、平成 27 年度に日本技術者教育認定機構（JABEE）による継続審査を受け、認定されました。JABEE が認定する教育プログラムの対象者は、高校からの編入学者も含め、本科から専攻科に進学する者です。また、他高専からの専攻科入学生も該当します。プログラムの修了者には、技術士一次試験免除等の利点があり、国際的な場で活躍する技術者となることが期待されています。また、電子情報通信専修コースは、JABEE の基準を意識せずに、自由に学べる教育プログラムです。

■創造工学専攻教育課程

区分		授業科目	授業形態	単位数	学年別配当				備考
					1年	2年	前期	後期	
教養科目	必修 選択	経営論	講義	2	2				
		実践英語	講義	2	2				
		法学	講義	2			2		
		文学作品講読	講義	2			2		
工学基礎科目	必修	技術者倫理	講義	2	2				
		数学特論Ⅰ	講義	2	2				
	選択	現代物理学	講義	2		2			
		知的財産権	講義	2		2			
		工業英語	講義	2		2			
		数学特論Ⅱ	講義	2		2			
		物理化学	講義	2		2			
		分析化学	講義	2			2		
		応用物理学	講義	2	2				
		建設工学概論	講義	2			2		
海外語学研修	実習	1			1				
教養・工学基礎科目開設単位数計				29	11	10	8	0	
教養・工学基礎科目修得単位数計				16 単位以上					
必修		工学実験・実習Ⅰ	実験	2	2				
		工学実験・実習Ⅱ	実験	2		2			
		特別研究Ⅰ	実験	6	6				
		特別研究Ⅱ	実験	10			10		
専門科目	必修	輪講Ⅰ	演習	2	2				
		輪講Ⅱ	演習	2			2		
		特別講義	講義	2		2			
		インターンシップⅠ	実習	1		1			
		インターンシップⅡ	実習	2		2			
		インターンシップⅢ	実習	4		4			
		インターンシップⅣ	実習	6		6			
		内燃機関工学	講義	2	2				機械工学コース科目
		計算力学特論	講義	2		2			
		弾塑性力学	講義	2			2		
	選択	材料強度学特論	講義	2		2			
		振動工学特論	講義	2	2				
		信頼性工学	講義	2			2		
		環境電磁工学	講義	2	2				電気情報工学コース科目
		現代制御理論	講義	2	2				
		エネルギー変換工学	講義	2			2		
		プロジェクト管理論	講義	2		2			
		電子物性	講義	2		2			
		集積回路	講義	2		2			
		半導体工学	講義	2			2		
		デジタル工学	講義	2			2		
		情報通信工学	講義	2	2				
		マイクロ波工学	講義	2			2		
		デジタル信号処理	講義	2	2				
		知識工学	講義	2		2			
		画像処理工学	講義	2		2			
		伝熱工学特論	講義	2	2				機械電子工学コース科目
		動力学特論	講義	2	2				
		最適化論	講義	2		2			
		数値解析特論	講義	2			2		
		先端接合工学	講義	2		2			
		エネルギー工学特論	講義	2	2				
		制御工学特論Ⅰ	講義	2		2			
		制御工学特論Ⅱ	講義	2			2		
メカトロニクス	講義	2	2						
耐震設計学	講義	2	2				建設環境工学コース科目		
耐久設計学	講義	2		2					
建設材料特論	講義	2			2				
連続体力学	講義	2		2					
コンピュータ構造解析	講義	2			2				
環境防災工学Ⅰ	講義	2	2						
環境防災工学Ⅱ	講義	2			2				
流体力学特論	講義	2	2						
建設数理計画学	講義	2	2						
社会基盤計画学	講義	2	2						
情報システム	講義	2		2					
建設工学演習	演習	2		2					
建設工学セミナー	演習	2				2			
環境倫理・マネジメント	講義	2				2			
専門科目開設単位数計				123	57	28	36	2	
専門科目修得単位数計				46 単位以上					
教養・工学基礎・専門科目開設単位数合計				152	68	38	44	2	
修得単位数合計				62 単位以上					



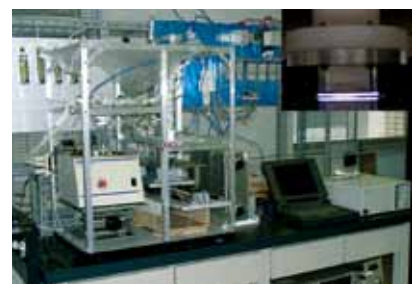
内燃機関の性能試験



土質材料の三軸圧縮実験



廃水の水質分析実験



大気圧コールドプラズマ発生装置



モーションキャプチャーによる運動解析

電子情報通信工学専攻教育課程

区分	授業科目	授業形態	単位数	学年別配当				備考
				1年	2年	前期	後期	
教養科目	必修 コミュニケーション英語Ⅰ	演習	2	1	1			
	必修 コミュニケーション英語Ⅱ	演習	2			1	1	
	選択 文学特論	講義	2			2		
工学基礎科目	必修 技術者倫理	講義	2	2				
	選択 物理科学特論	講義	2		2			
	選択 応用数学特論	講義	2	2				
	選択 知的財産権	講義	2		2			
	選択 工業英語	講義	2	2				
	選択 工業数学	講義	2		2			
教養・工学基礎科目開設単位数計			18	7	7	3	1	
修得単位計			必修6単位を含む14単位以上					
専門科目	必修 特別研究Ⅰ	実験	6	6				
	必修 特別研究Ⅱ	実験	4			4		
	必修 特別実験・演習Ⅰ	実験	4	4				
	必修 特別実験・演習Ⅱ	実験	6			6		
	選択 量子力学	講義	2				2	
	選択 情報工学概論	講義	2	2				
	選択 デジタル信号処理工学	講義	2			2		
	選択 応用電磁気学	講義	2	2				
	選択 グラフ理論	講義	2	2				
	選択 情報ネットワーク論	講義	2		2			
	選択 電子回路特論	講義	2		2			
	選択 計測工学特論	講義	2				2	
	選択 システム制御工学	講義	2			2		
	選択 アルゴリズムとデータ構造	講義	2	2				
	選択 マルチメディア工学	講義	2			2		
	選択 画像処理工学	講義	2				2	
	選択 特別講義	講義	2		2			
	選択 インターンシップⅠ	実習	1		1			
	選択 インターンシップⅡ	実習	2		2			
	選択 インターンシップⅢ	実習	4		4			
	選択 インターンシップⅣ	実習	6		6			
	選択 通信工学	講義	2		2			通信ネットワークコース科目
	選択 電磁波・光波工学	講義	2			2		
	選択 光通信工学	講義	2				2	
	選択 無線工学特論	講義	2				2	
	選択 応用電子物性工学	講義	2		2			電子システムコース科目
	選択 集積回路工学	講義	2			2		
	選択 デジタル制御工学	講義	2				2	
	選択 オブジェクト指向プログラミング	講義	2		2			情報コース科目
	選択 応用ネットワークプログラミング	講義	2			2		
	選択 データベース設計	講義	2				2	
専門科目開設単位数計			79	28	15	17	19	
修得単位計			必修20単位を含む48単位以上					
教養・工学基礎・専門科目開設単位数合計			97	35	22	20	20	
修得単位数合計			必修26単位を含む62単位以上					



ストックホルム国際青年科学セミナー
(写真提供・国際科学技術財団)



マイクロソフト主催Imagine Cup2015世界大会
(画像提供・マイクロソフト(株))



国際会議NANO SciTech2017



専攻科棟(高松キャンパス)



専攻科棟(設間キャンパス)

国際交流活動

◇国際学術交流

学術交流協定の締結

2005年 8月	東洋工業専門大学(韓国)(現 東洋未来大学校)	Dongyang Mirae University(DMU)
2009年 6月	ダナン工科大学(ベトナム)	Danang University of Technology (DUT)
2009年 12月	正修科技大学(台湾)	Cheng Shiu University(CSU)
2010年 6月	ソウル大学校工科大学(韓国)	College of Engineering, Seoul National University(SNU)
2010年 8月	マラ工科大学(マレーシア)	Universiti Teknologi MARA(UiTM)
2012年 6月	クライストチャーチポリテク大学(ニュージーランド)	Christchurch Polytechnic Institute of Technology (CPIT)
2013年 7月	カーン大学(フランス)	University of Caen Basse-Normandie
2014年 8月	ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校(タイ)	Rajamangala University of Technology Thanyaburi (RMUTT)
2015年 3月	泰日工業大学(タイ)	Thai-Nichi Institute of Technology (TNI)
2015年 12月	トゥール大学(フランス)	Universite Francois-Rabelais Tours (UFRT)



学生交流協定の調印 (2015年4月10日)
RMUTTのPinpathomrat 学長(左)と本校の八尾校長(右)



グローバル・エンジニア研修受入プログラム (RMUTT)

◇学生の国際交流活動

- ・海外インターシップへの派遣(派遣国と学生数)
2009年度: タイ(2)、2010年度: フィリピン(1)、2011年度: 中国(1)、インドネシア(1)、フィリピン(1)
2012年度: 香港(1)、シンガポール(1)、2013年度: 米国(1)、中国(1)、台湾(1)、
2015年度: タイ(1)、香港(1)、ベトナム(1)
- ・英語による専門授業(協定校からの招聘講師)
2010年10月: 建設環境工学科(ソウル大学校)、2011年1月: 機械工学科(正修科技大学)、9月: 電気情報工学科(カイロ大学)、2013年1月: 通信ネットワーク工学科(正修科技大学)、6月: 建設環境工学科(カーン大学)、
10月: 建設環境工学科(マレーシア国民大学)、10月: 電子システム工学科(マラ工科大学)

◇香川高専・他高専・高専機構が主催・共催した学生の国際交流活動(2011~2016年度)

期 間	派遣/受入	学生数	派遣先/受入国	プ ロ グ ラ ム
2013年,8/27-30	派 遣	4	長 野	革新的プロジェクトに関する会議 (IWIP2013)
2013年,10/25-30	受 入	6	韓 国	東洋未来大学校との学術交流
2013年,11/20-22	派 遣	4	香 港	持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際シンポジウム(ISTS2013)
2014年,3/23-27	派 遣	6	台 湾	台湾土木遺産来訪&日台環境セミナー
2014年,6/25-26	派 遣	3	マレーシア	建設環境系国際研究セミナー(IPGS2014)
2014年,8/15-9/16	派 遣	16	N Z	海外語学研修 (CPIT)
2014年,10/13-17	派 遣	8	韓 国	韓国電子展、東洋未来大学校との学術交流
2014年,10/22-23	受 入	20	台 湾	台湾国立大甲高級工業職業学校 教育旅行団
2014年,11/19-21	派 遣	5	台 湾	持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際シンポジウム(ISTS2014)
2015年,8/4-11	派 遣	4	マレーシア	持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際シンポジウム(ISTS2015)
2015年,8/14-30	派 遣	1	シンガポール	高専生のための英語キャンプ
2015年,8/15-9/13	派 遣	6	N Z	海外語学研修 (CPIT)
2016年,3/12-27	派 遣	1	シンガポール	シンガポール技術英語研修(津山高専)
2016年,8/19-9/18	派 遣	6	N Z	海外語学研修 (Ara)
2016年,8/20-9/11	派 遣	1	豪	海外語学研修
2016年,10/4-12	派 遣	3	インドネシア	持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する国際シンポジウム(ISTS2016)
2016年,12/17-21	派 遣	1	シンガポール	海外協定校合同研究発表会

◇香川高専グローバルエンジニア研修プログラム（GETプログラム）

【概要】 本校と学術交流協定を締結する海外の大学（以下、協定校）との間で研究課題を共有できる分野において、本校学生を派遣し協定校の教育研究環境で自らの専門分野に取り組む。また協定校から学生を受入れ、共に研究課題に取り組む。これらによって、英語を用いたコミュニケーション能力を向上させると共に、海外異文化の理解や自国日本の理解を深めることを目標とする。

これまでの
実績

派遣型

派遣先	実施時期	派遣人数
マラエ科大学	2014年、2/25-3/11	5
正修科技大学	2014年、3/20-30	2
マラエ科大学	2014年、9/3-19	4
マラエ科大学	2015年、3/1-11	5
マラエ科大学	2016年、2/26-3/15	5
トゥール大学	2016年、9/29-12/19	1
マラエ科大学	2017年、2/23-3/15	3
ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	2017年、3/1-3/10	7
計		32

受入型

受入元	実施時期	受入人数
正修科技大学	2014年、7/28-8/11	2
ラジャマンガラ工科大学タンヤブリ校	2015年、4/10-30	6
トゥール大学	2016年、4/11-6/29	1
マラエ科大学	2017年、3/14-3/31	15
計		24

◇国際シンポジウム等の開催（2011～2016年度）

- ・「環境地盤工学に関する国際シンポジウムGEE」主催・共催：香川高専ほか 2011年5月、2012年5月、2013年5月、2014年5月、2015年5月、2016年5月
- ・「KNCT-DMU 合同教育研究会」共催：香川高専・東洋未来大学 2011年7月、2013年10月
- ・「マレーシアー日本 土木・環境に関するシンポジウム」共催：マラエ科大・香川高専・京都大学 2013年3月
- ・「建設環境系国際研究セミナー IPGS」共催：香川高専・マラエ科大学ほか 2013年6月、2014年6月
- ・「ナノテクノロジーに関する国際会議 NanoSciTech&IC-NET」共催：マラエ科大学・名古屋工業大学・香川高専 2014年2月、2015年2月、2016年2月、2017年2月
- ・「電子工学及びナノテクノロジーに関する国際セミナー International Seminar on Electronics Engineering and NANO Technology」共催：マラエ科大学・香川高専 2017年3月
- ・「土木工学と社会資本整備に関する国際会議 (InCIEC2015)」マラエ科大学 2015年9月
- ・「エコなエネルギー、材料科学および工学に関するシンポジウム EMSES」共催：RMUTT、京都大学、京都工芸繊維大学、香川高専 2016年12月



台湾國立大甲高級工業職業學校 教育旅行団



NANO SciTech & IC-NET 2015 (マラエ科大学)

◇外国人留学生 国・年度毎の留学生入学者数

出身国 編入学年度	ドイツ シュラ	ブラジル	カンボジア	中 国	コロンビア	インド	インドネシア	ケニア	韓 国	ラオス	マレーシア	モンゴル	フィリピン	スリランカ	タイ	ウガンダ	ベトナム	パキスタン	計
平成29年度(2017年度)											2	2			1				5
平成28年度(2016年度)											4	1			1				6
平成27年度(2015年度)									(2)	1		1						1	5
平成26年度(2014年度)							2				2								4
平成25年度(2013年度)											1					1			2
平成24年度(2012年度)																			
昭和60年度(1985年度)	7	1	4	5	1	1	11	1	2	8	69	6	9	7	10	1	11		154
計	7	1	4	5	1	1	13	1	4	9	78	10	9	7	12	2	11	1	176

()は専攻科入学者数

留学生関係行事

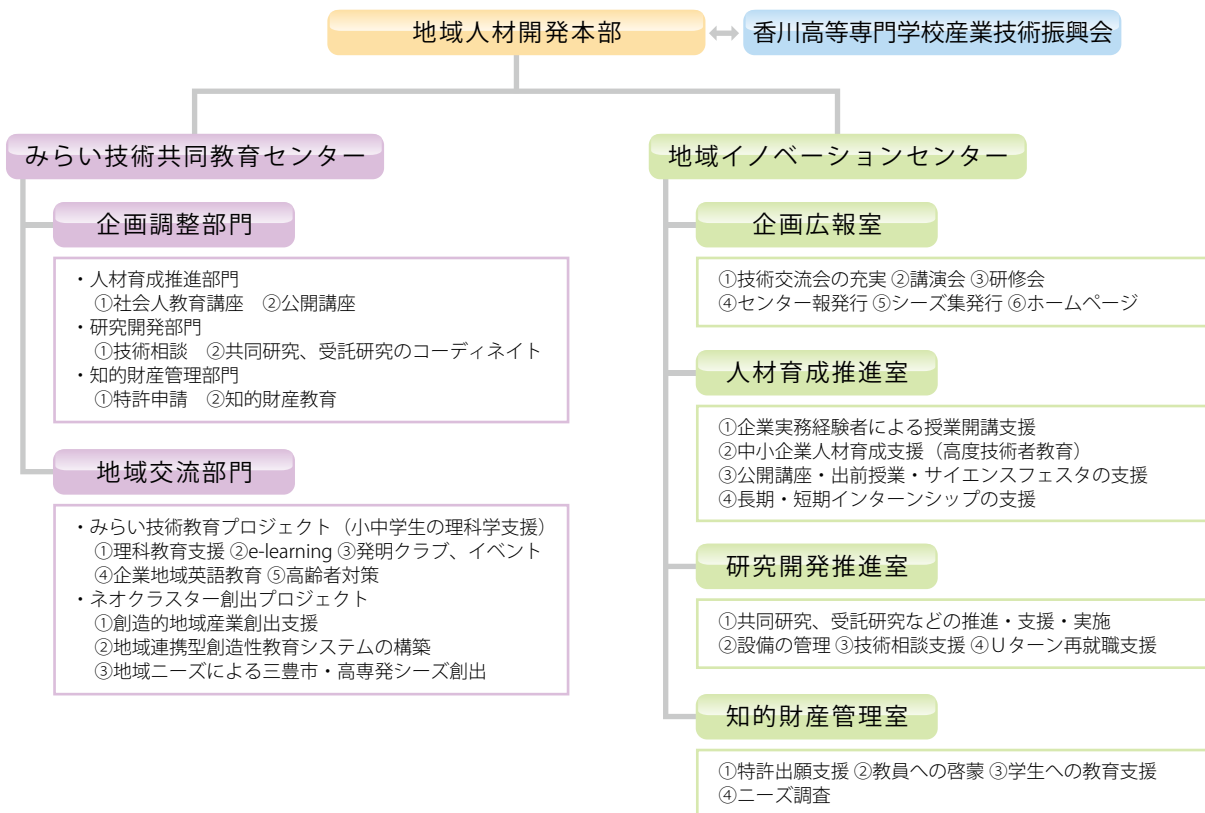
- ① 四国地区高等専門学校外国人留学生交流活動
- ② 留学生見学旅行（両キャンパス合同）
- ③ 「留学生交流会」の両キャンパスでの年2回開催
- ④ 留学生の地域活動
（国際交流団体等の主催する各種イベントへの参加）



留学生交流会（高松・詫間キャンパス合同）

地域人材開発本部

◇地域人材開発本部組織図



◇スタッフ

地域人材開発本部	本部長	八尾 健（校長）
	副本部長	岩田 弘（機械工学科 教授）
	教授	関 丈夫（四国地区高専産学官連携コーディネーター）
みらい技術共同教育センター	センター長	金澤 啓三（情報工学科 准教授）
	副センター長	中村 篤博（一般教育科 准教授）
	企画調整部門長	天造 秀樹（電子システム工学科 准教授）
	地域交流部門長	三河 通男（専任 電子システム工学科兼任 准教授）
地域イノベーションセンター	センター長	岩田 弘（専任 機械工学科兼任 教授）
	副センター長	嶋崎 真一（機械電子工学科 准教授）
	企画広報室長	高橋 宏明（一般教育科 教授）
	人材育成推進室長	向谷 光彦（建設環境工学科 教授）
	研究開発推進室長	小島 隆史（機械工学科 教授）
	知的財産管理室長	山本 雅史（電気情報工学科 助教）

◇みらい技術共同教育センター（詫間キャンパス）

施設概要

多目的実験室、多目的ホール、ものづくり共同利用実験室、食品研究開発共同利用実験室、ICT 関係共同研究室 I、II、集積回路実験室（デバイス製作室、高精度分析室）



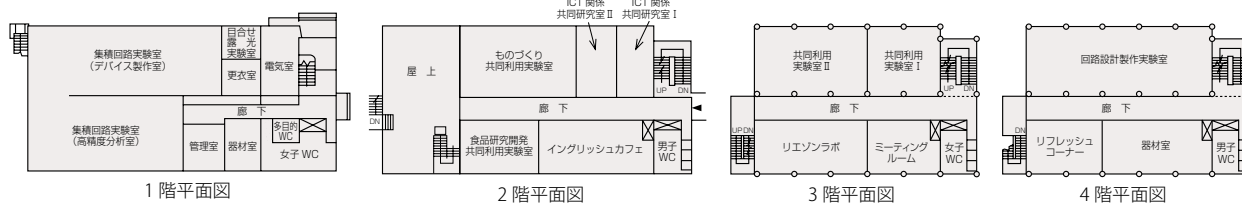
集積回路実験室（高精度分析室）



多目的実験室



ものづくり共同利用実験室



集積回路実験室では、各種高機能性電子材料薄膜の作製・微細加工およびそれらの高分解能分析評価を行うための装置を備え、教員及び学生の実験・研究に利用されています。電子材料薄膜の作製・微細加工用装置としては高周波マグネトロンスパッタリング装置、プラズマ CVD 装置、真空蒸着装置、目合わせ露光装置、電子線描画装置などがあり、高分解能分析評価装置としてはエネルギー分散形 X 線分光器（EDS）付フィールドエミッション走査電子顕微鏡（FE-SEM）、残留農薬分析装置、薄膜材料結晶解析 X 線回折システム、プラズマ発光分析装置、蛍光 X 線分析装置、表面形状測定装置があり、学外からも利用が可能です。



電子線描画装置



EDS 付フィールドエミッション走査電子顕微鏡



薄膜材料結晶解析 X 線回折システム



表面形状測定装置



残留農薬分析装置



蛍光 X 線分析装置

◇地域イノベーションセンター（高松キャンパス）

業務内容

地域イノベーションセンターは地域における知の拠点としての役割を担うべく、走査型プローブ顕微鏡をはじめとする最新の表面分析機器や材料分析機器、学内で使える有限要素法解析装置などを整備し、産学共同研究・受託研究の環境を整備しています。また、プロジェクト室やクリーンルームを設けて研究の加速的な推進に供しています。さらに、香川高専産業技術振興会や地域企業との交流のためにイブニングセミナーなどの各種行事を開催しています。

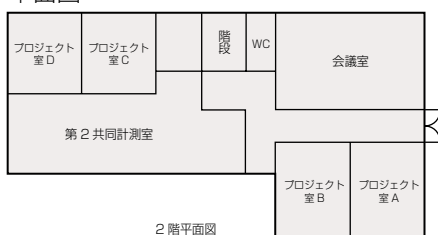


講習会

設備

多目的X線回折装置、波長分散型蛍光X線分析装置、高真空装置、原子吸光分光光度計、卓上顕微鏡、エリプソメータ用裏面反射除去装置、走査型プローブ顕微鏡、汎用有限要素法解析システム、サーモグラフィカメラ、卓上型スパッタコーダ

平面図



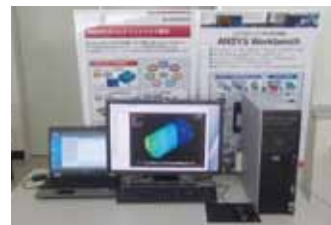
第1共同計測室



第2共同計測室



走査型電子顕微鏡



汎用有限要素法解析システム

◇香川高専教員の研究分野、キーワード

研究部門	キーワード
産業・工業部門	固体力学・塑性加工、材料強度・疲労強度、流体力学・流体工学、機械設計・信頼性工学、エネルギー工学
素材加工部門	材料学・材料工学・機械材料学、材料加工学、溶接工学
振動・制御部門	機械力学・振動工学、機械制御、メカトロニクス・ロボット
電気材料部門	誘電体、半導体、磁性体、電磁界、薄膜
回路設計部門	電子回路、論理回路、回路設計
計測・分析部門	計測、音響・騒音、信号処理・スペクトル解析
画像・認識部門	画像処理・パターン認識、医用
情報・通信部門	ソフトウェア、ネットワーク、情報コンテンツ、無線通信、教育工学
建設・構造部門	構造、地盤、橋梁、コンクリート、水理、交通・計画、都市計画、計算力学（数値解析）、海岸、調査、地理情報システム
環境・防災部門	環境保全、バイオ技術、防災・安全システム、BCP（事業継続計画）、ため池
地域・文化部門	語学、物理学、化学、数学、人文科学・社会科学、体育

◇産学官連携活動

[香川高等専門学校産業技術振興会]

設 立 平成 21 年 8 月 28 日

目 的 地域産業界と香川高専との連携を深め、香川高専が有する人・知・物的資源を活用し、技術交流や情報交換等各種事業を通し、地域産業の発展を図るとともに、香川高専の教育研究の振興に寄与しています。

事業内容 産学連携による技術開発の推進、地域産業の発展。技術に関する講演会、講習会、研修会の開催及び情報誌の発行。技術分野での技術相談、情報交換。企業社員の研修等育成支援事業。共同研究等推進支援事業。インターンシップ。合同会社説明会。共同教育。香川高専の教育・研究の充実、振興。その他。



定期総会



会員企業見学会



合同会社説明会

[四国地区高専地域イノベーションセンター]

目 的 阿南工業高等専門学校、香川高等専門学校、新居浜工業高等専門学校、弓削商船高等専門学校及び高知工業高等専門学校は、四国地区高専の持つポテンシャルと地域の特性を生かし、地域の活性化と産業の振興に寄与する産学官連携活動を組織的系統的に展開しています。

業務内容

1. イノベーション創出部門
四国地区高専が連携して行う技術シーズとニーズのマッチングに関すること。技術相談、共同研究等の産学官連携活動に関すること。
2. 知的財産部門
四国地区高専が連携して行う知的財産管理及び知的財産教育に関すること。
3. 四国地区高専連携部門
前部門の業務以外で、センターの目的を達成するために必要な業務に関すること。

◇地域社会連携活動

[公開講座・セミナー]

2016. 6.12 サウンドロボカーをつくろう!!	2016. 9.26~27 疲労設計と材料力学の基礎講習会
2016. 6.25 科学教室inさぬきこどもの国	2016.10. 2 ミニサイエンスフェスタ
2016. 7. 2 第11回スイム記録会&スタート練習会in三豊	2016.10.21 最新!原位置透水試験法(基本コース)
2016. 7.30~31 からくり工房2016ー親子で楽しむモノづくりー	2016.10.29 サイエンスクラブのおもしろ科学体験
2016. 7.31 お絵かき電子工作!回転バラバラ漫画を作ろう	2016.11.13 はじめてのプログラムープログラムで遊ぼうー
2016. 7.31 カメラでのぞこう光の不思議	2016.12. 8~9 組込み技術セミナー(実力養成コース)
2016. 8. 7 磁石で遊ぼう!貯金箱作り	2016.12.11 サイエンスクラブ科学体験教室
2016. 8. 7 スロットカーを作ろう!	2016.12.18 楽しんでみよう!硬式野球!~硬式ボールを打つ・投げる・捕る~
2016. 8.22 夏休みお助け塾!土木の水土コンでモノづくり	2016.12.18, 2017.1.22 第6回小学生を対象としたロボット工作教室「ロボットについて知ろう!&オリジナルのロボットを作って動かしてみよう!」
2016. 8.24~26 組込み技術セミナー(基礎コース)	2016.12.23 中学生のための高専数学講座
2016. 8.26 現場ですぐに役立つ三軸試験セミナー(基本コース)	2017. 1.27 実装!原位置透水試験法(応用コース)
2016. 8.27 Android入門講座	2017. 2. 4~5 LED無限万華鏡を作ろう
2016. 8.28 模擬人工衛星(缶サット)の制作・打ち上げ講座	2017. 3. 4~5 ソーラーカーの仕組みについて知ろう
2016. 9. 1~2 有限要素法解析入門	2017. 3.26 ウォーキングライトを作ろう!!
2016. 9. 4 第12回スイム記録会&スタート練習会in三豊	2017. 3.26 音で遊ぼう!!
2016. 9.24 組込み技術セミナー(組込みAndroidコース)	

研究活動等

◇科学研究費助成事業

被曝低減を目的としたX線動画の処理と評価法の研究
動作解析による熟練者のもつ暗黙知のデジタル化と解析データに基づく指導方法の確立
非摂動的弦理論における対称性の自発的破れ
電場と磁場の同時印加による太陽電池用均一径シリコン球の製造およびその結晶性制御
スプレー型コントローラーを用いた放射線生物影響教育ツール
高次元の dual hyperoval と関連する有限体上の関数
RF デザインエンジニア育成プログラムの開発
リチウムイオン二次電池電極材料の緩和解析
アドホック/センサーネットワークの技術を応用したタブレット教育環境の構築
電磁調理器による漏れ磁界と接触電流の実態調査に基づいたドシメトリ研究
非固溶性不純物原子が転位の溶質雰囲気引きずり運動と熱間延性に及ぼす影響の解明
付け爪を応用した無拘束実時間心拍モニタリングデバイスの開発と在宅医療への展開
位置検出型有機フルカラーイメージセンサの開発
物理学学習のための3Dシリアスゲーム教材の開発
グレブナー基底に基づいたモデル予測制御系の最適設計パラメータ欠定法の開発
建物群破壊確率モデルの高精度化
生分解性樹脂コンクリートの実用化へ向けた実験的検討
復興道路コンクリート構造物の品質確保マネジメントシステムの実装と展開
コンピテントエンジニア育成志向の先端実験流体力学研究の実践と広域工学教育への適用
理科室で構築するナノテクプラットフォーム
高専一貫教育に適合させた英語自律学習支援システムの開発と教育効果の検証
Macdonald 多項式の明示的公式と付随する代数構造の研究
ミューオン精密物理で切り拓く次世代素粒子標準模型への道
非摂動的弦理論の高次摂動級数と非摂動効果から見える基本的自由度と超対称性の破れ
広帯域センサレス力制御ロボットによる熟練者技能の触覚力覚クラウドシステムの開発
地方部における地域公共交通計画立案のための交通系ビッグデータの活用
アイカメラを用いた農作業技術継承マニュアルの提案
機械翻訳を利用した英文ライティング指導方法に関する研究
会話ロボットとの自由な対話に資するコミュニケーション断絶防止技術の研究
エネルギー変換の多様性を学ぶスロットカー製作教材の開発
複数分野の有機的結合による多角的分析力の涵養ー通信技術に着目してー
学生の携帯電話を使用したオリジナルカーによるソフトウェア実験教材の開発
レーザープラズマを用いた高輝度X線集光技術の開発

総件数 33 件 総金額 35,667,271 円



科学研究費助成事業公募説明会

◇受託研究

分光反射スペクトルと機械学習を用いた露地栽培における生産・品質管理手法の高精度化
三豊市・香川高等専門学校連携事業
DHS システムを用いた水量変動追従型水処理技術実証事業
ICT を活用した農業生産技術高位平準化支援システム開発等業務
離島における高齢者・在宅介護者の地域ケアシステムの開発

総件数 5 件 総金額 11,424,480 円

◇共同研究

次世代映像技術に関する研究
水素ラジカルを用いたレジスト除去技術の開発
斜面安定工に関する研究
坂道における車椅子の安全性を高める走行補助装置の開発
コンクリート 2 次製品の高機能化に関する研究
光ファイバー FBG 素子の応用に関する研究
X 線画像の高画質化の研究
リサイクル家電からの有価金属の抽出方法の開発
天井クレーンの防災対策に関する研究
やる気を引き出す家庭学習管理システムの開発と評価
Cone-Beam CT (CBCT) の画質改善に関する研究
原位置透水試験装置「水華」の改良と高機能化
酸化物半導体材料の開発
自走式点検機を用いた電力線腐食診断に関する研究
下水道管検査システムの実用化に向けた改善
放射性汚染物の位置判別システムの開発
津波被害に沿岸地域特性に関する研究
画像認識によるターゲット検出のための照明光スペクトル最適化と実問題への応用
伝統文化の継承のための 3D プリンタの活用
コンクリート構造物の表層品質評価手法に関わる研究
車載 LED 接合部のルーズコンタクト検出
マルチコプターと自走式点検機を用いた電力線腐食診断に関する研究
生命兆候計測センサーの開発

他 5 件 総件数 28 件 総金額 9,454,800 円

◇その他競争的資金・助成金

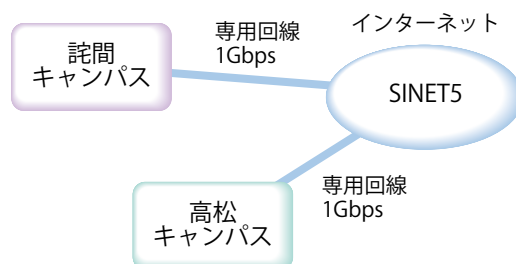
乾燥地域における灌漑再利用のための革新的下水処理技術開発の国際研究拠点形成
地域企業でグローバルに活躍できる人材の育成、地域企業への就職を推進するための学生の地域企業研究の推進、地域企業・学生・教職員・自治体が連携した地域シーズ創出
うどん県で働くプロジェクト～能動学修による地域の魅力発見
情報入力・通信環境機能を備えた低価格センサーシステムの全国会場への導入と共通データベース・情報共有システムの構築による実証試験
国立高専超小型衛星実現に向けての全国高専連携宇宙人材育成事業
高松市こども未来館科学体験教室
革新的技術を集約した次世代型閉鎖循環式陸上養殖システムの開発と日本固有種サクラマス類の最高級ブランドの創出
学生による知財創造を推進する教育プログラムの実践
手書きした磁力線を自動採点するシステムの開発とその教育評価
次世代へ受け継ぐ外国航路船員の知識・経験～粟島海員学校 OB が語る船員の仕事と日常～
瀬戸内海から世界の海へ～次世代に受け継ぐ外国航路船員の知識・経験～
すべり面部分液状化に起因した自然斜面の崩壊現象と簡易な棚田式対策工法の構造評価
異なる骨材を用いたコンクリートの力学的一考察―庵治石ズリの有効利用へ向けた取組み―
衛生指標微生物の除去を強化する DHS 下水処理システムの開発
粉末冶金法による抗菌・消臭・抗ウイルス機能を有するアルミニウムバルク体の作製に関する研究

総件数 15 件 総金額 21,818,874 円

情報処理施設

◇情報インフラストラクチャ

学外には、各キャンパスから学術情報ネットワーク (SINET) と 1Gbps の専用回線による接続を行っています。



ネットワークと学外接続

◇情報基盤センター

・高松キャンパス

ハードディスクイメージ自動復帰方式のクライアントコンピュータが、第一演習室（47 台）、第二演習室（50 台）、第三演習室（18 台）とマルチメディア教室（54 台）に設置されており、コンピュータリテラシー教育、プログラミング教育および工学系アプリケーションソフトを使った演習授業などに使われています。



高松キャンパス 第一演習室



高松キャンパス 第二演習室



高松キャンパス 第三演習室

・詫間キャンパス

ハードディスクイメージ自動復帰方式のクライアントコンピュータが、第2演習室（53 台）、マルチメディア・ラーニング・ラボ（49 台）、高度情報教育ラボ（50 台）、サイバー・ラボ（49 台）に設置されており、コンピュータ・リテラシー及び ICT 教育に幅広く利用されています。また、全学生が学内のどこからでも電子メールやインターネットの利用ができる環境となっています。



詫間キャンパス 第2演習室



詫間キャンパス サイバー・ラボ



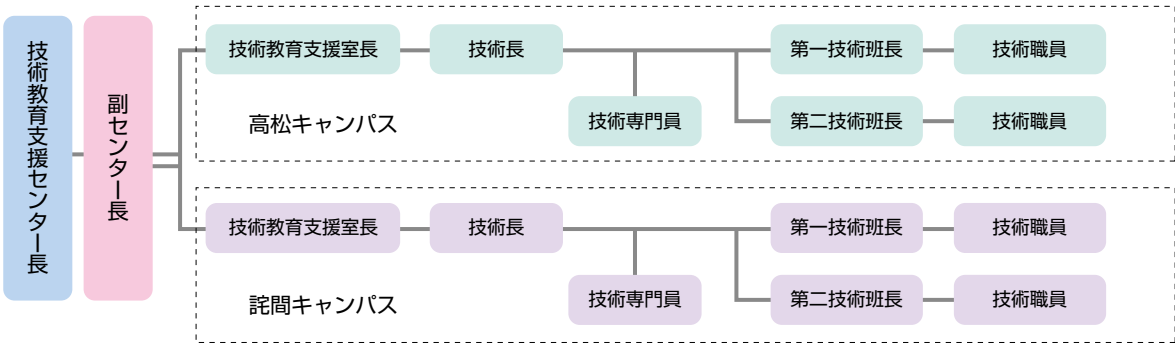
詫間キャンパス 高度情報教育ラボ

技術教育支援センター

技術教育支援センターは、技術・教育に関する専門的支援業務を組織的かつ効果的に処理するとともに、地域への技術指導及び出前授業等を通して社会貢献に資することを目的としています。主な業務は次の通りです。

- ・ 学生の実験、実習、卒業研究、行事の技術指導及び安全確保
- ・ 情報処理、情報ネットワークの支援
- ・ 教育、研究及び社会貢献に関する技術支援
- ・ 技術資料の作成、保管及び提供、機器、薬品等の管理並びに災害防止
- ・ 技術の継承、技術向上のための技術研修、技術発表会及び技術講演会等の企画、実施等
- ・ 地域連携事業及び各種イベントへの技術協力

技術教育支援センターは、高松キャンパス技術教育支援室及び詫間キャンパス技術教育支援室で構成されています。



◇高松キャンパス技術教育支援室

機械系に関する実験、実習、卒業研究の技術教育支援を主とする第一技術班と、電気・情報・建設系に関する実験、実習、卒業研究の技術教育支援を主とする第二技術班で構成されています。



建設環境工学科



マシニングセンタ実習

◇詫間キャンパス技術教育支援室

電子・通信系に関する実験、実習、卒業研究の技術教育支援を主とする第一技術班と、情報系に関する実験、実習、卒業研究の技術教育支援を主とする第二技術班で構成されています。



デジタル回路製作実験



公開講座

◇スタッフ

	室 長	技術長	技術専門員	第一技術班		第二技術班
高松キャンパス 技術教育支援室	木原 茂文	寺嶋 昇		班長	寺嶋 昇（兼務）	小野真二（技術専門職員）
				技術専門職員	向井公人、丸笹憲志、大賀祐介、棧敷 剛	岡崎芳行、吉成知己、向井しのぶ、中島香織
				技術職員	大平正芳	田辺絵理奈、中山一平、古川満信
詫間キャンパス 技術教育支援室	福永 哲也	垂水 良浩	村上 浩	班長	村上 浩（兼務）	西川和孝（技術専門職員）
				技術専門職員		河口尚宏、新宅宏志
				技術職員	毛利千里、福田清人、境 祐仁	

学生相談等施設

◇学生相談室（両キャンパス）

学生相談室では、学校生活における悩みや日常生活上の個人的な悩みを抱える学生、又は不適応状態に陥っている学生に対して、必要に応じて指導助言あるいはカウンセリング等を行って、学生一人ひとりが有意義で充実した学生生活を送れるように支援しています。

臨床心理士の資格を持つカウンセラーの先生が定期的に来校して、学生相談室で相談を受け付けています。また、校内では教職員の中から選ばれた学生相談室員が、常時相談を受け付けています。



高松キャンパス 学生相談室



詫間キャンパス 学生相談室

◇キャリアサポートセンター（両キャンパス）

学生への就職・進学支援やインターンシップ等のキャリア支援を主目的として、各種企画の実施と情報収集および提供を行っています。それぞれの対象学生に下記企画を実施しています。

（Ⅰ）就職・進学支援

- （１）就職のための合同企業説明会の実施
- （２）履歴書の書き方講座の開講
- （３）面接実技研修の実施
- （４）SPI対策講座の開講
- （５）進路についての懇談会の実施

（Ⅱ）キャリア支援

- （１）インターンシップ説明会の実施
- （２）香川県技術士会による出前授業の実施
- （３）県内企業人による技術出前講座の実施
- （４）OB等による出前講座や企業説明会の開催



面接実技風景



合同企業説明会風景



技術士会による出前授業風景



OBによる出前授業風景

図書館

両キャンパスにはそれぞれ図書館が設置され、知の源であり、また、情報発信の場でもある図書館の役割を果たすために整備を図っています。平日は 20 時までですが、平日だけでなく、土曜日にも開館しています。学生・教職員以外の一般の方にも開放し、貸出サービスも実施しています。

高松キャンパス図書館

■開館時間

月～金 8:30～20:00 土 10:00～16:30
※長期休業中 月～金 8:30～17:00

■図書館利用状況

平成 28 年度	貸出冊数		計	学生 1 人当り 貸出冊数
	学生	教職員・学外		
	8,156	1,498	9,654	9.2

■DVD・ビデオ：1,451 タイトル

■CD：2,211 タイトル

■平成 28 年度購入：DVD 等 21 タイトル
CD 53 タイトル



閲覧室



貸出カウンター

■平成 28 年度末現在分類別蔵書冊数

分類	洋書	和書	計	内閲覧室		
				洋書	和書	計
0 (総記)	210	5,833	6,043	60	2,780	2,840
1 (哲学)	270	4,523	4,793	1	2,127	2,128
2 (歴史)	252	6,806	7,058	14	3,379	3,393
3 (社会科学)	527	9,008	9,535	11	4,442	4,453
4 (自然科学)	2,866	16,067	18,933	50	8,407	8,457
5 (技術工学)	2,489	25,360	27,849	232	13,193	13,425
6 (産業)	19	1,060	1,079	2	602	604
7 (芸術)	189	4,979	5,168	30	3,143	3,173
8 (言語)	1,844	3,657	5,501	814	1,996	2,810
9 (文学)	1,074	16,156	17,230	46	11,904	11,950
計	9,740	93,449	103,189	1,260	51,973	53,233

詫間キャンパス図書館

■開館時間

月～金 8:30～20:00 土 10:00～16:30
※長期休業中 月～金 8:30～17:00

■図書館利用状況

平成 28 年度	貸出冊数		計	学生 1 人当り 貸出冊数
	学生	教職員・学外		
	7,835	2,098	9,933	11.9

■DVD・ビデオ：1,033 タイトル

■CD：2,011 タイトル

■平成 28 年度購入：DVD 等 0 タイトル
CD 8 タイトル



閲覧室



視聴覚コーナー

■平成 28 年度末現在分類別蔵書冊数

分類	洋書	和書	計	内閲覧室		
				洋書	和書	計
0 (総記)	537	7,448	7,985	163	3,911	4,074
1 (哲学)	256	2,977	3,233	42	1,807	1,849
2 (歴史)	208	5,869	6,077	17	3,906	3,923
3 (社会科学)	180	6,517	6,697	8	3,833	3,841
4 (自然科学)	2,043	14,466	16,509	256	9,423	9,679
5 (技術工学)	1,795	17,190	18,985	257	7,187	7,444
6 (産業)	55	1,242	1,297	4	735	739
7 (芸術)	26	3,695	3,721	13	2,948	2,961
8 (言語)	3,245	4,073	7,318	2,815	2,542	5,357
9 (文学)	711	15,109	15,820	179	10,096	10,275
計	9,056	79,586	87,642	3,754	46,388	50,142

学生寮

◇清雲寮（高松キャンパス）

高松キャンパスには「清雲寮」という学生寮があり、南寮、北寮、西寮の3つの建物があります。南寮と北寮には男子学生が、西寮には女子学生がそれぞれ生活しています。

- 南寮（男子高学年用） 鉄筋コンクリート造4階建（一部3階） 1人部屋（9㎡）：57室、1人部屋（13.5㎡）：2室、2人部屋（24㎡）：1室
- 北寮（男子低学年用） 鉄筋コンクリート造3階建 1人部屋（11㎡）：29室、1人部屋（15㎡）：1室、2人部屋（15㎡）：24室
- 西寮（女子寮） 鉄筋コンクリート造3階建 1人部屋（10㎡）：24室、2人部屋（15㎡）：8室
- 共同室 学習室、日本語演習室、製図室、補食談話室、洗面洗濯室、浴室、食堂

■入寮者数

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計
寮生数	35 (4)	33 (8)	36 (4) (3)	33 (4) (4)	20 (4) (1)	0	157 (24) (8)

※（ ）内は女子学生、< >内は外国人留学生でそれぞれ内数

平成29年5月1日現在



清雲寮（南寮）



清雲寮（西寮・北寮）



新入寮生歓迎会

◇七宝寮及び紫雲寮（詫間キャンパス）

詫間キャンパスには、「七宝寮」と「紫雲寮」という学生寮があります。3つの建物で構成されていますが、七宝寮に男子学生が、紫雲寮に女子学生がそれぞれ生活しています。

- 七宝寮（男子寮） 2棟 鉄筋コンクリート造4階建 1人部屋（13.5㎡）：26室、2人部屋（27㎡）：9室
3棟 鉄筋コンクリート造5階建 1人部屋（9㎡）：46室、2人部屋（18㎡）：69室
- 紫雲寮（女子寮） 4棟 鉄筋コンクリート造5階建 1人部屋（9㎡）：12室、2人部屋（18㎡）：38室
- 共同室 自習室、パソコンルーム、談話室、補食談話室、洗面洗濯室、浴室、食堂

■入寮者数

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	計
寮生数	52 (6)	37 (10)	52 (12) (2)	48 (6) (2)	38 (6) (1)	13	240 (40) (5)

※（ ）内は女子学生、< >内は外国人留学生でそれぞれ内数

平成29年5月1日現在



七宝寮・紫雲寮



寮生球技大会



寮室

福利厚生施設

◇^{じきよう}自彊会館（高松キャンパス）

本会館は、学生及び職員の福利厚生を図るとともに、学生の課外活動等の発展を助成することを目的として、昭和 57 年 4 月に建設されました。会館には、食堂（150 席）、コンビニ機能店、保健室、学生会室等があります。

売 店 平日 8：30～18：00

食 堂 平日 11：00～13：30



自彊会館

◇福利センター（詫間キャンパス）

詫間キャンパスには、学生及び教職員の福利厚生を図るとともに、学生の課外活動等を助成し、学校生活を豊かにすることを目的とした福利センターがあります。この施設には研修室、オーディオルーム、売店、食堂、談話室及び学生会事務局があります。主な施設の利用時間は次のとおりです。

売 店 平日 10：30～20：00

平日の前の休日 18：00～20：00

食 堂 平日のみ 10：30～13：30

談話室 終日



福利センター

◇職員集会所（高松キャンパス）

高松キャンパスには、宿泊も可能な職員集会所があります。教職員の業務に必要な LAN の設備もあり、茶華道部、囲碁・将棋部も使用しています。



職員集会所（高松キャンパス）

◇職員集会所（詫間キャンパス）

詫間キャンパスは、教職員の研修等に使用する職員集会所（夕風荘）があります。この施設は、学生の課外活動として、演劇部や茶道部が使用しています。



職員集会所（詫間キャンパス）

◇和敬館（高松キャンパス）

本施設は、健全にしかつ規律ある学生生活の向上を図り、豊かな人間性を育成することを目的として、昭和 58 年 3 月に建設されました。施設には、和室（3 室）、シャワー室、洗面所及び便所等合宿研修に必要な諸設備が整備されています。



和敬館

◇合宿研修所（詫間キャンパス）

詫間キャンパスには、健全にしかつ規律ある学生生活の向上を図り、豊かな人間性を育成することを目的とした合宿研修所があります。この施設には研修室、談話ホール、浴室及び補食室等の設備があり、長期休業期間中に課外活動の合宿研修等に使用しています。



合宿研修所

学生数と志願者状況

◇学生数 平成29年5月1日現在

■本科

学 科 名	区 分	入学定員	現 員					計
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
新 課 程	機械工学科	40	43(2)	42(2)	45(1)	39(3)[2]	37(3)[1]	206(11)[3]
	電気情報工学科	40	42(7)	44(2)	43(7)	44(7)	35(5)	208(28)
	機械電子工学科	40	44(4)	39(3)	43(4)[1]	37	40(7)	203(18)[1]
	建設環境工学科	40	42(9)	45(12)	41(9)[2]	45(8)[2]	41(7)	214(45)[4]
	通信ネットワーク工学科	40	43(5)	41(11)	39(9)	39(5)[1]	37(6)[1]	199(36)[2]
	電子システム工学科	40	42(6)	45(5)	46(7)[1]	40(3)	41(6)	214(27)[1]
	情報工学科	40	43(4)	38(5)	39(8)[1]	38(6)[1]	36(7)	194(30)[2]
	計	280	299(37)	294(40)	296(45)[5]	282(32)[6]	267(41)[2]	1,438(195)[13]

■専攻科

専 攻 名	区 分	入学定員	現 員		計
			1 年	2 年	
専 攻 名	創造工学専攻	24	35(2)	26(2)	61(4)
	電子情報通信工学専攻	18	23(3)	19(1)	42(4)
	計	42	58(5)	45(3)	103(8)

() 内は女子学生で内数
[] 内は外国人留学生で内数

◇入学志願者数と入学者数

■本科

※入学志願者／入学定員

平成29年度 (2017年度)	区 分	入学志願者数	入学者数	倍 率
	機械工学科	45	42	1.1
	電気情報工学科	45	42	1.1
	機械電子工学科	40	42	1.0
	建設環境工学科	55	42	1.4
	通信ネットワーク工学科	45	43	1.1
	電子システム工学科	51	42	1.3
	情報工学科	64	42	1.6
	計	345	295	1.2

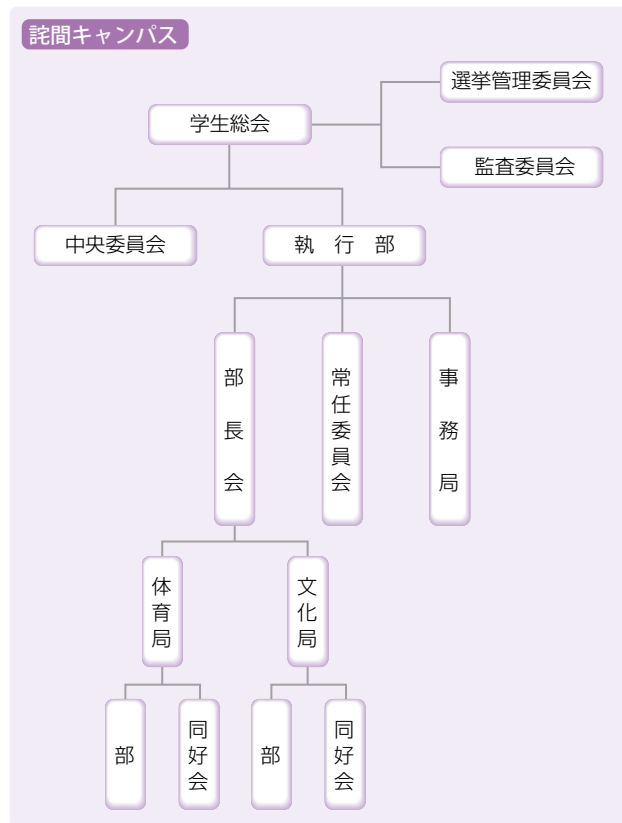
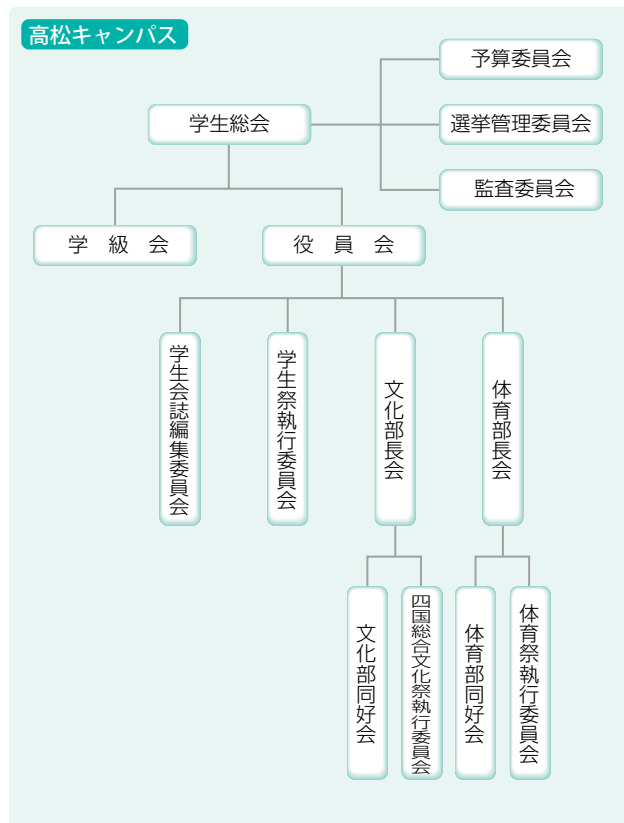
■専攻科

※入学志願者／入学定員

平成29年度 (2017年度)	区 分	入学志願者数	入学者数	倍 率
	創造工学専攻	45	35	1.9
	電子情報通信工学専攻	40	23	2.2
	計	85	58	2.0

学生組織

◇学生会組織図



◇部活動及び同好会

[高松キャンパス]

■体育系クラブ

野球部
バスケットボール部
ソフトテニス部
バレーボール部
卓球部
柔道部
剣道部
陸上競技部
サッカー部
ヨット部
水泳部
バドミントン部
テニス部
ハンドボール部

■文化系クラブ

写真部
吹奏楽部
ESS
軽音楽部
情報システム研究部
美術部
合唱団フローエ・テーネ
OCS
機械システム研究部
次世代自動車研究部
茶華道部
サイエンスクラブ
囲碁・将棋部
宇宙開発研究部

■同好会

文芸同好会

[詫間キャンパス]

■体育局

【部】
野球部
バスケットボール部
ソフトテニス部
バレーボール部
卓球部
柔道部
剣道部
陸上部
サッカー部
ヨット部
水泳部
空手部
トレッキング部

少林寺拳法部
バドミントン部
テニス部
【同好会】
応援団同好会

■文化局

【部】
吹奏楽部
無線部
ESS
将棋部
茶道部
軽音楽部
SJRC
【同好会】
写真同好会
書道同好会
情報総合研究会
絵画同好会

模型同好会
文芸同好会
演劇同好会
SPOT



全国高専ロボコン2016優勝



全国高専体育大会バドミントン準優勝



第51回全国高専体育大会陸上競技 棒高跳 優勝

進路状況

◇本科生

学 科		卒業者数	進学者数	就職者数	その他	求人会社数
高 松	機械工学科	39	18	19	2	863
	電気情報工学科	33	23	10	0	
	機械電子工学科	46	20	24	2	
	建設環境工学科	34	10	22	2	
	小 計	152	71	75	6	
詫 間	通信ネットワーク工学科	44	20	24	0	513
	電子システム工学科	43	17	26	0	
	情報工学科	36	16	18	2	
	小 計	123	53	68	2	
合 計		275	124	143	8	

◇専攻科生

専 攻		修了者数	進学者数	就職者数	その他
高 松	創造工学専攻	36	11	25	0
詫 間	電子情報通信工学専攻	24	5	18	1
合 計		60	16	43	1

◇大学編入先一覧 本科生

進 学 先	高 松					詫 間			合 計
	機 械	電 気	機 電	建 設	通 信	電 子	情 報		
香川高専専攻科創造工学専攻	11	14	9	1					35
香川高専専攻科電子情報通信工学専攻					10	10	3		23
豊橋技術科学大学	1		1	2	2		1		7
長岡技術科学大学	2		4	2	3	4			15
茨城大学						1			1
愛媛大学				1		1			2
大阪大学		1							1
岡山大学	1		1						2
香川大学			1			1	1		3
金沢大学			1						1
岐阜大学			1						1
九州大学							1	1	2
九州工業大学						1	2	3	6
群馬大学							1	1	2

進 学 先	高 松					詫 間			合 計
	機 械	電 気	機 電	建 設	通 信	電 子	情 報		
高知大学				1					1
神戸大学		1							1
佐賀大学		1							1
首都大学東京	1								1
信州大学							2	2	4
千葉大学				1					1
筑波大学		1					1	2	4
徳島大学	1	2	1		1		2	7	14
富山大学			1						1
広島大学	1								1
北海道大学				1					1
琉球大学								1	1
和歌山大学		1		1			1	3	5
立命館大学					2	1		3	6

◇大学院入学先一覧 専攻科生

進 学 先	高 松	詫 間	合 計
豊橋技術科学大学大学院		1	1
愛媛大学大学院	2		2
大阪大学大学院		1	1
熊本大学大学院	1		1
筑波大学大学院	2		2
東京大学大学院		1	1

進 学 先	高 松	詫 間	合 計
東京工業大学大学院	2		2
徳島大学大学院		2	2
名古屋工業大学大学院	1		1
奈良先端科学技術大学院大学	1		1
広島大学大学院	1		1
北陸先端科学技術大学院大学	1		1

◆就職先一覧

就 職 先	高 松				託 開			合 計
	機 械	電 気	機 電	建 設	通 信	電 子	情 報	
旭化成(株)		1						1
(株)朝日ダンボール			1					1
アズビル(株)			1					1
アトラス情報サービス(株)		1						1
eBASE(株)							1	1
石井事務機(株)						1		1
(株)石垣	1							1
(株)イシダ			1				1	2
出光興産(株)	2	2		1				5
(株)ウエスコ			1					1
ANAラインメンテナンステクニクス(株)	1							1
NECネットエスアイ(株)					2			2
NECフィールドینگ(株)						1		1
(株)NHKメディアテクノロジー					1			1
NSウエスト(株)						1		1
エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株)			1					1
NTTコム エンジニアリング(株)					1			1
(株)NTTフィールドテクノ						1		1
愛媛県					1			1
大紀商事(株)						1		1
大倉工業(株)							1	1
(株)大塚製薬工場					1			1
沖津電気工業(株)						1		1
オリエンタルモーター(株)				1				1
香川県			1	1				2
鹿島クレス(株)			1					1
関西グリコ(株)	1							1
関西電力(株)	1					1	1	3
キャノン(株)		1						1
京セラ(株)		1						1
錦城護謄(株)				1				1
(株)きんでん							1	1
(株)クレオ			2					2
(株)ケイ・オブティコム							1	1
KDDI(株)							1	1
KDDIエンジニアリング(株)					2			2
(株)建設マネジメント四国				1				1
神島化学工業(株)						1		1
国土交通省四国地方整備局	1		2					3
(株)五星						1		1
コベルコ建機(株)				1				1
コベルコソフトサービス(株)							1	1
五洋建設(株)				1				1
坂出市			2					2
さぬき市				1				1
(株)サクセス					1			1
沢井製薬(株)			1			1		2
サントリープロダクツ(株)	1							1
サントリーホールディングス(株)	1	1						2
CTCシステムマネジメント(株)						1		1
JFEスチール(株)						1		1
JFEプラントエンジニア(株)						1		1
(株)ジェイ・エム・エンジニアリング			1					1
四国管区警察局					2			2
四国経済産業省				1				1
四国計測工業(株)					1			1
四国中央市			1					1
四国電力(株)			1	1	1	1		4
四国旅客鉄道(株)			1	1				2
四変テック(株)						1		1
ジャパンマリンユナイテッド(株)	1							1
伸興電線(株)		1						1
水ing(株)				1				1
住友大阪セメント(株)				1				1
積水アクアシステム(株)			1					1
(株)SEBACS						1		1
総合警備保障(株)					1	1		2
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)				1				1
ソフトバンク(株)						1	1	2
SOLIZE Engineering(株)	1							1
ダイキンエアテクノ(株)							1	1

就 職 先	高 松				託 開			合 計
	機 械	電 気	機 電	建 設	通 信	電 子	情 報	
ダイキン工業(株)						1		1
(株)ダイセル				1				1
(株)DynaxT							1	1
高松市				1				1
大日本コンサルタント(株)					1			1
(株)タダノ	1	1						2
(株)タダノエンジニアリング					1			1
多度津造船(株)							1	1
(株)タマディック		1						1
(株)チェリーコンサルタント				1				1
(株)中央エンジニアリング					1			1
中部電力(株)						1		1
TMCシステム(株)			1					1
(株)ティーネットジャパン					1			1
(株)ティスコ						1		1
電源開発(株)						1		1
東亜合成(株)						1	1	2
東海旅客鉄道(株)				1				1
東京ガス(株)				1				1
TOTO(株)					1			1
東和薬品(株)							1	1
ドコモCS四国(株)						1	1	2
(株)西島製作所					1			1
(株)長峰製作所						1		1
(株)浪速技研コンサルタント				1				1
西精工(株)			1					1
西日本高速道路(株)					1			1
日信電子サービス(株)			1					1
日本ゼオン(株)	1							1
(株)日本テクニード		1			1	1		3
(株)日本テクニクス							1	1
日本ビラー工業(株)							1	1
長谷川体育施設(株)				1				1
パナソニックエレクトロニクス内装建材(株)						1		1
(株)Hanoi Advanced Lab							1	1
阪神内燃機工業(株)	1							1
(財)阪大微生物病研究会						1		1
(株)日立ビルシステム			1					1
(株)ヒューテック							1	1
兵庫製紙(株)							1	1
ファナック(株)					1			1
富士アイティ(株)		1						1
(株)富士通マーケティング							1	1
富士テクノサービス(株)	1						1	2
フジテック(株)						1		1
富士電機(株)		1			1			2
フジプレアム(株)	1							1
(株)フジメディア・テクノロジー							1	1
本州四国連絡高速道路(株)					1			1
(株)増田地質工業						1		1
(株)松村組				1				1
丸亀電機テクニカ(株)							1	1
マルホ発條工業(株)			1				1	3
三井造船(株)	1						1	2
(株)ミックウェア			1					1
三菱電機エンジニアリング(株)								1
三菱電機システムサービス(株)						1		1
三菱電機(株)受配電システム製作所			1			1	2	4
三菱電機(株)姫路製作所				1			1	2
三菱電機ビルテクノサービス(株)	1							1
ムラテックCCS(株)	1							1
(株)モビテック			1					1
矢崎総業(株)							1	1
雪印メグミルク(株)			1					1
ユニチャームプロダクツ(株)						1		1
(株)四電技術コンサルタント				1	2			3
(株)四電工		1		1		1		2
(株)リヴィティエ							1	1
リンテック(株)							1	1
(株)レクザム					1			1
ロジックINAソリューションズ(株)						1		1

施設配置図

高松キャンパス



建物

① 管理部及び一般教育棟	3,638	⑩ 職員集会所	156
② 一般教育棟	1,104	⑪ クラブハウス①	150
③ 機械工学科棟	2,185	⑫ クラブハウス②	149
④ 機械実習工場	994	⑬ 風洞実験室	150
⑤ 電気情報工学科棟	1,644	⑭ 自彊会館	742
⑥ 機械電子工学科棟	848	⑮ 和敬館	250
⑦ 建設環境工学科棟及び講義棟	2,480	⑯ 清雲寮(北寮)	1,375
⑧ 専攻科棟	2,156	⑰ 清雲寮(南寮)	1,302
⑨ 図書館棟	1,843	⑱ 清雲寮(西寮)	512
⑩ 情報基盤センター	383	⑲ 清雲寮(食堂等)	400
⑪ 地域イノベーションセンター	606		
⑫ 第一体育館	990		
⑬ 第二体育館	880		
⑭ 武道場	346		
⑮ トレーニングセンター	160		

屋外運動場

②⑥ 水泳プール(6コース25m)
②⑦ 運動場(トラック300m・サッカー場・ラグビー場)
②⑧ ハンドボールコート(1面)
②⑨ 人工芝テニスコート(1面)・ミニバスケットコート(1面)
③⑩ 野球場(1面)
③⑪ テニスコート(4面)
③⑫ 人工芝テニスコート(1面)

土地

【区分】	【面積㎡】
校舎 寄宿舎 運動場 職員宿舎敷地(別途借用地)	132,702 (424)
木太町職員宿舎敷地	1,092
昭和町職員宿舎敷地	1,074

財政

◇収入・支出 (平成28年度)

●収入

(単位:千円)

運営費交付金	109,481
施設費	0
自己収入	
授業料及び入学金検定料	384,226
雑収入	11,129
産学連携等研究収入及び寄附金	46,695
その他補助金	13,480
計	565,011

●支出

(単位:千円)

教育研究経費	390,980
一般管理費	124,452
施設費	0
産学連携等研究費及び寄附金事業費等	43,361
その他補助金	13,480
計	572,273

・ 詫間キャンパス



建物

番号	名称	面積㎡
1	管理棟	1,194
2	第一学科棟	3,716
3	第二学科棟	1,496
4	第三学科棟	2,177
5	マルチメディア棟	1,636
6	専攻科棟	948
7	第一講義棟	3,360
8	第二講義棟	660
9	図書館	1,661
10	寄宿舎管理棟	1,200
11	七宝寮2棟	1,647
12	七宝寮3棟	2,652
13	紫雲寮	1,350
14	東共用棟	234
15	西共用棟	598
16	寄宿舎ボイラー棟	84
17	寄宿舎倉庫	50
18	寄宿舎浴場	135
19	第一体育館	825
20	第二体育館	879
21	武道場	304
22	合宿研修所	204
23	体育器具庫	144
24	プール付属建物	60
25	福利センター	662
26	職員集会所	194
27	七宝記念館	318
28	守衛所	29
29	車庫	145
30	職員宿舎	1,093

屋外運動場

31	水泳プール(7コース25m)
32	野球グラウンド
33	陸上競技場(トラック300m)
34	テニスコート(6面)

土地

【区分】	【面積㎡】
校舎敷地・寄宿舎・運動場・職員宿舎	121,093

◇ 寄附金受入状況

● 寄附金

【年度】	【件数】	【金額(単位:千円)】
平成23年度	21	16,220
平成24年度	24	14,420
平成25年度	26	18,060
平成26年度	28	15,851
平成27年度	26	14,808
平成28年度	31	14,309

アクセスマップ ACCESS MAP



詫間キャンパス アクセスルート

■JR 詫間駅からの交通

- ・詫間駅前バス停留所より三豊市コミュニティバス「詫間線 大浜・名部戸行き」または「詫間三野線 大浜行き」に乗り、約 20 分後、「香川高専前」バス停にて下車

■JR 岡山・児島駅からの交通

- ・JR 岡山駅から JR 詫間駅間、約 90 分
- ・JR 児島駅から JR 詫間駅間、約 60 分

■通学のための最寄り駅からの距離

- ・JR 詫間駅から詫間キャンパス間、約 6km

■高松自動車道からの交通

- ・（東方面よりお越しの場合）三豊鳥坂インターチェンジより約 20 分
- ・（西方面よりお越しの場合）さぬき豊中インターチェンジより約 30 分

■高松空港からの交通

- ・高松空港より車で約 60 分

詫間キャンパス

〒769-1192 香川県三豊市詫間町香田 551
TEL.0875-83-8506

高松キャンパス アクセスルート

■JR 高松駅からの交通

- ・JR 高松駅バスターミナル⑤番バス乗り場より「④由佐・空港行き」「④由佐・岩崎行き」「⑤池西・香南楽湯行き」のいずれかに乗車、約 25 分後「小山」①バス停にて下車、徒歩約 10 分
- ・JR 高松駅バスターミナル⑤番バス乗り場より「⑦栗林公園・御殿・県立プール行き」乗車、約 30 分後「香川高専前」②バス停にて下車

■JR 岡山・児島駅からの交通

- ・JR 岡山駅から JR 高松駅間、約 60 分
- ・JR 児島駅から JR 高松駅間、約 30 分

■通学のための最寄り駅からの距離

- ・JR 高松駅から高松キャンパス間、約 7km
- ・JR 栗林駅から高松キャンパス間、約 5km
- ・JR 端岡駅から高松キャンパス間、約 5km
- ・③コトデン円座駅から高松キャンパス間、約 4km

■高松自動車道からの交通

- ・（西方面よりお越しの場合）高松西インターチェンジより約 7 分
- ・（東方面よりお越しの場合）高松榑紙インターチェンジより約 5 分

■高松空港からの交通

- ・高松空港より車で約 20 分

高松キャンパス

〒761-8058 香川県高松市勅使町 355
TEL.087-869-3811

香川高等専門学校 校歌

作詞:藤本 友美

作曲:永町 一樹

1. き の め ほ こ ろ ぶ と き だ い ち の い き づ か い さ
 2. の び る わ か ば の と き し ろ い は な が さ く た な
 3. め ぐ み ゆ た か な と き か た く み を む す ぶ な

5
 む き の み ど り に は か ぜ す み わ た る た
 か く は る か な そ ら の ぞ む た い よ う お
 が め る せ と の う み あ お い さ ぎ な み き

9
 く ま し く み な ぎ る お も い み
 お き な あ す そ の て に ひ め て う
 た い も ゆ じ ゆ う な ひ と み い

13
 ら い こ め そ う ぞ う は ぐ く み ゆ こ う }
 け つ が ん で ん と う ぐ ら び て ゆ こ う } こ
 ぎ つ ど い こ う が く ひ ら い て ゆ こ う }

17
 こ ろ ひ と つ な ぎ か が わ こ う せ ん

- 3 恵み豊かな時 固く実を結ぶ
 眺める瀬戸の海 青いさざ波
 期待萌ゆ 自由な瞳
 いざ集い 工学 拓いてゆこう
 心ひとつなぎ 香川高専

2 伸びる若葉の時 白い花が咲く
 高く遙かな空 臨む太陽
 大きな明日 その手に秘めて
 受け継がん 伝統 結びてゆこう
 心ひとつなぎ 香川高専

1 木の芽はさるふ時 大地の息つかい
 讃岐のみどりには 風澄み渡る
 遅しく みなぎる想い
 未来こめ 創造 育みゆこう
 心ひとつなぎ 香川高専



香川高等専門学校

〒761-8058 香川県高松市勅使町355 TEL.087-869-3811

■ 高松キャンパス	〒761-8058	香川県高松市勅使町355	TEL.087-869-3811
■ 詫間キャンパス	〒769-1192	香川県三豊市詫間町香田551	TEL.0875-83-8506

URL <http://www.kagawa-nct.ac.jp/>